

「東海地震における警戒宣言発令時の市民行動調査」

平成 1 4 年 1 1 月

名 古 屋 市

目 次

1	調査の概要	1
2	アンケート集計結果	3
2 . 1	調査対象者の属性	3
2 . 2	事前対策などについて	6
2 . 3	判定会招集、警戒宣言を知った時の行動について	1 2
2 . 4	自宅にいる時の避難行動について	1 4
2 . 5	外出している時の避難・帰宅行動について	1 7
2 . 6	現在の食料・飲料水などの自宅での備蓄について	2 5
2 . 7	判定会招集、警戒宣言発令による買い物について	2 8
2 . 8	市に望むことについて	3 2
3	調査票	3 9

１．調査の概要

（１）調査目的

警戒宣言発令時等における市民の行動などを広く調査した上で、警戒宣言発令時の対策を考える基礎資料とする。

（２）調査内容

調査内容は、以下の通りである。

事前対策

判定会招集、警戒宣言発令を知った時の行動

自宅にいる時の避難行動

外出している時の避難・帰宅行動

食料・飲料水の自宅での備蓄

判定会招集、警戒宣言発令による買い物

市に望むこと

（３）調査対象地域

名古屋市全域

（４）標本対象

名古屋市在住者を対象とし、満20歳以上の市民2000人を無作為抽出した。

（５）調査方法

アンケート調査票の郵送配布、郵送回収とした。

（６）調査期間

平成14年6月～平成14年7月

（７）調査主体

名古屋市消防局防災室

（８）回収状況

アンケート配布数2,000通、回収数が1,011通、回収率が50.6%である。次ページに回収状況の詳細を示す。

アンケート回収率（区別・男女別）

区名	人口総数	標本数（送付数）			回収数				回収率（％）		
		男	女	合計	男	女	不明	合計	男	女	合計
全市	2,174,004	984	1,016	2,000	441	517	53	1,011	44.8	50.9	50.6
千種区	149,515	67	71	138	31	35	2	68	46.3	49.3	49.4
東区	66,124	28	33	61	9	25	0	34	32.1	75.8	55.9
北区	166,565	75	78	153	31	37	4	72	41.3	47.4	47.0
西区	140,369	64	65	129	31	28	5	64	48.4	43.1	49.6
中村区	133,573	61	62	123	26	34	1	61	42.6	54.8	49.6
中区	65,521	29	31	60	11	10	2	23	37.9	32.3	38.2
昭和区	105,010	50	47	97	23	31	1	55	46.0	66.0	56.9
瑞穂区	103,375	47	48	95	19	27	4	50	40.4	56.3	52.6
熱田区	62,928	26	32	58	11	18	1	30	42.3	56.3	51.8
中川区	211,315	89	105	194	41	42	3	86	46.1	40.0	44.2
港区	151,382	70	69	139	25	39	3	67	35.7	56.5	48.1
南区	146,299	69	66	135	38	33	4	75	55.1	50.0	55.7
守山区	156,373	72	72	144	36	35	0	71	50.0	48.6	49.4
緑区	209,977	96	97	193	39	46	5	90	40.6	47.4	46.6
名東区	152,667	69	71	140	34	41	1	76	49.3	57.7	54.1
天白区	153,011	72	69	141	36	36	0	72	50.0	52.2	51.1
区不明	-	-	-	-	0	0	17	17	-	-	-

平成 14 年 4 月 1 日人口（推計人口）を利用。

アンケート回収率（市計・男女別年齢別）

年齢区分	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上	不明	合計
標本数	319	282	280	453	385	281	-	2,000
回収数	96	119	131	230	244	160	31	1,011
回収率（％）	30.1	42.2	46.8	50.8	63.4	56.9	-	50.6

２．アンケート集計結果

２．１ 調査対象者の属性

住区別・性別・年齢別集計については、回収率の表に掲載済みであり、それ以外の問の集計結果を以下に示す。

【問Ｂ】あなたの職業

勤務人（サラリーマン、管理職）が３割程度を占める。続いて多いのが無職で２割強である。その他には、運転手、ヘルパー、保育士、事務員など、「勤務人」の具体的な仕事内容を記述された方が多かった。

区分 市合計	勤務人	自営業・自由業	パート職	家事専業	学生	無職	その他	不明・未記入	合計
人数(人)	292	151	113	155	15	235	23	27	1,011
率(%)	28.9	14.9	11.2	15.3	1.5	23.2	2.3	2.7	100.0

【問Ｄ】ご家族にあなたも含めて以下のような方はいらっしゃいますか？

警戒宣言発令時の避難の際に手助けが必要になると考えられる乳幼児・小学生・中学生、70歳以上の方、自力避難が困難な方は、アンケート送付市民100人あたり約57人もいることがわかる。70歳以上の方の比率が一番高い。

区分 市合計	乳幼児・小学生・中学生	70歳以上の方	1,2以外で自力避難が困難な方	合計
人数(人)	169	344	67	580
率(%)	16.7	34.0	6.6	57.3

率は、アンケート回収数1,011人に占める割合。

【問Ｅ】問Ｄの１．２．３に該当する方は、自分または家族や近所の方の介助で避難できますか？

問Ｄの１．２．３に該当する方のうち、家族や近所の方の介助で避難できない方は約9%程度いることがわかる。アンケート送付市民100人あたり5人程度の方が、日常において家族や近所の方の介助で避難できない可能性があるかと推定される。

区分 市合計	できる	できない	合計
人数(人)	451	44	495
率(%)	91.1	8.9	100.0

【問 F】住居の種類・構造・階数・建築年・住んでいる階

【所有形式】

持家が約 8 割を占める。「その他」には、持家に含まれるマンション、「借家・寮・間借・下宿」に含まれる賃貸マンション、アパートなどのほかに、「市・県営住宅」「老人ホーム」「ケアハウス」「福祉施設・施設」「親・家族が所有の持家」などを記入された方がいた。

区分	持家	借家・寮・間借・ 下宿	その他	合計
市合計				
人数(人)	758	168	61	987
率(%)	76.8	17.0	6.2	100.0

【構造】

木造が約 5 割を占める。非木造のなかでは、RC、SRC 造が各 2 割、同程度を占める。

区分	木造	RC(鉄筋 コンクリ ート造)	SRC(鉄骨 鉄筋コン クリート 造)	その他の 非木造	わからな い	合計
市合計						
人数(人)	509	207	181	43	37	977
率(%)	52.1	21.2	18.5	4.4	3.8	100.0

【建築年】

「年代はわからない」が数%あったが、昭和 56 年以前建物が、昭和 56 以降建物よりもやや多い傾向である。

区分	1.昭和 56 年 (1981 年)以前	2.昭和 56 年 (1981 年)以降	3.わからない	合計
市合計				
人数(人)	512	431	34	977
率(%)	52.4	44.1	3.5	100.0

【建物階数】

空欄・不明データがかなり多いため有効回答数が少なくなったが、1, 2 階あわせて約 5 割、3 階から 5 階、6 階以上が各 25%程度を占める。

区分	1. 1 階	2. 2 階	3. 3 階～ 5 階	4. 6 階～ 8 階	5. 9 階 以上	合計
市合計						
人数(人)	32	332	190	77	98	729
率(%)	4.4	45.5	26.1	10.6	13.4	100.0

【住んでいる階数】

居住階数は「一戸建ての方」は未記入でよいとしたが、「建物階数」の回答率から一戸建てでない方で未記入である人もかなり多いと考えられ、両者回答の区分けをすることが困難になった。

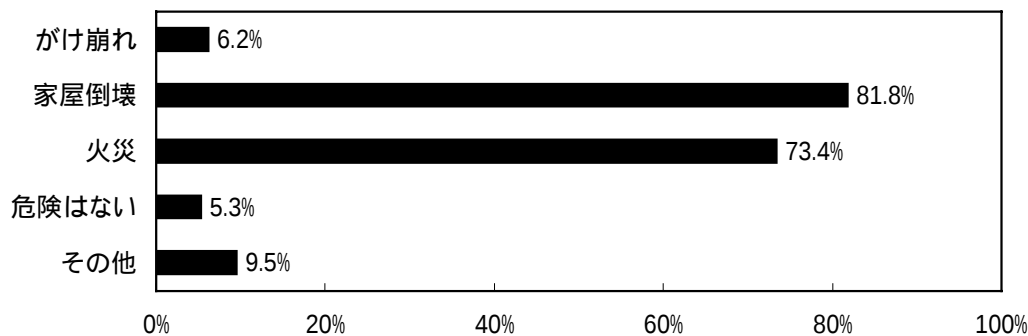
区分 市合計	1. 1 階	2. 2 階	3. 3 階 ~ 5 階	4. 6 階 ~ 8 階	5. 9 階 以上	合計
人数(人)	107	111	141	52	26	437
率(%)	24.5	25.4	32.3	11.9	5.9	100.0

2.2 事前対策などについて

【問1】東海地震のような大地震が発生した場合、あなたの住まいおよび周辺ではどのような危険があると思われますか。（○はいくつでも）

1. がけ崩れ	2. 家屋倒壊	3. 火災
4. 危険はない	5. その他（ ）	

家屋倒壊・火災の危険を心配する方はどの区でも多い。がけ崩れは緑区、天白区、千種区で高い。



その他被害の危険性を選択する人が 9.5%もあり、具体的に記入された危険項目を以下に示す。水害関係、続いて地盤関係の被害を危惧する声が多かった。

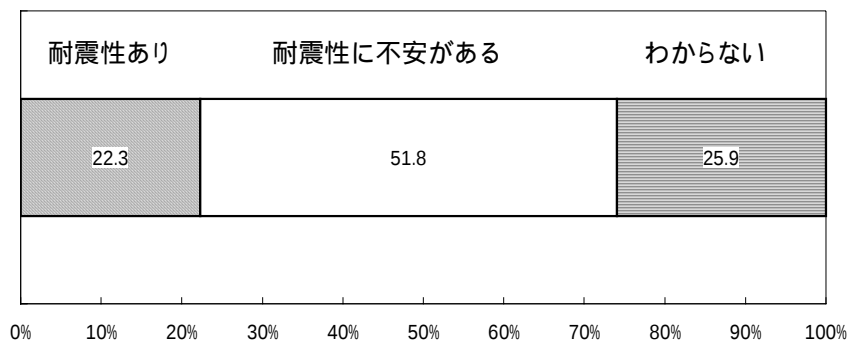
5. その他への記入内容

種類	具体的内容
水害関係	河川堤防の決壊・河川の氾濫・水害・庄内川の決壊・浸水、津波、池の氾濫
地盤関係	液状化現象、地盤沈下、地割れ、地盤の弱さ、地盤が低い、道路の陥没
ライフライン関係被害	高圧線の倒壊、電柱、電線の倒壊、水道管被害など
危険物	化学工場の有害ガス、ガスタンク
家具転倒・落下物	家具の倒壊・家具の下敷き、ガラスによるケガ、落下物（ビルの落下物、窓ガラス等）、ブロック塀の倒壊
交通関係	交通事故、高速道路の倒壊、橋の倒壊、交通の遮断、車両火災、人や車の渋滞
その他	動物が逃げ出す、盗難

【問 2】自宅の耐震性についてご存知ですか？（○はひとつ）

1．耐震性あり	2．耐震性に不安がある	3．わからない
---------	-------------	---------

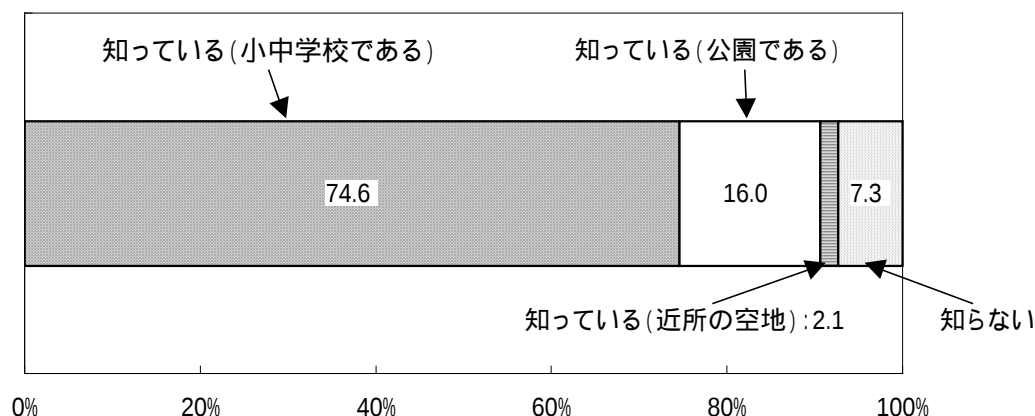
耐震性ありが約 22%、耐震性に不安ありが 52%、わからないが 26%(4 人に 1 人)となり、どの区でも同様の傾向である。建物属性別回答を見ると、借家よりも持家、木造よりも非木造建物、昭和 56 年以前よりも昭和 56 以降建物に住む人のほうが、耐震性ありの率が高い。



【問 3】あなたの地域の避難場所をご存知ですか？（○はひとつ）

1．知っている（小中学校である）	2．知っている（公園である）
3．知っている（近所の空地である）	4．知らない

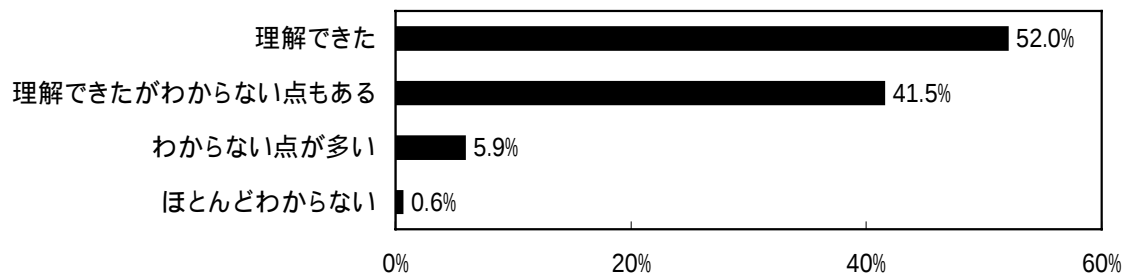
避難場所には近隣の小中学校が指定されている。「1．知っている（小中学校である）」を選択した人が約 75%いたが、公園や空地を避難場所と認識している人が 18%、知らない人が 7%いる。避難場所と広域避難場所などを混乱している人も多いことが伺える。



【問４】前ページの説明を読んで、「警戒宣言発令」時の社会の様子や規制、市民のとりべき行動などが理解できましたか？（○はひとつ）

- | | |
|-------------|-------------------|
| １．理解できた | ２．理解できたがわからない点もある |
| ３．わからない点が多い | ４．ほとんどわからない |

約半数が理解できたという回答であり、「理解できたがわからない点もある」を含めると90%以上を占める。



【問５】問４で、２．３．４．とお答えになった方にお聞きします。不明点、わからない点は、どの点でしょうか？（○はいくつでも）

- | | |
|-------------------|------------------|
| １．警戒宣言発令時の社会の様子 | ２．警戒宣言発令時の規制内容など |
| ３．市民のとりべき行動 | ４．その他（ ） |
| <不明点をご自由にお書きください> | |

問４で２．３．４と回答した 454 人中、「警戒宣言発令時の社会の様子」「警戒宣言発令時の規制内容など」「市民の取るべき行動」、いずれも約４割以上の人が、わからない点ありと答えている。「警戒宣言発令時の規制内容など」が48%と最も高い。

また、問４で「理解できた」「理解できたがわからない点もある」の声が多勢を占めたにもかかわらず、「４．その他」へ、不明点を列挙する人が大変多い。警戒宣言発令時の概要はわかるが、実際どのような状況になり、どのように行動してよいかわからないという声が多いと考えられる。



自由記述内容を以下にまとめる。

(1) 判定会招集・警戒宣言に関する不明点

項目	内容
東海地震、警戒宣言の知識	・東海地震の規模 ・判定会とは？ ・地震予知は本当にできるのか？ ・異常発見と同時に警戒宣言発令すればいいのでは？ ・地震予測手法、結果が一般に知れ渡っていない。 ・判定会招集から警戒宣言発令、地震発生までの経過時間 ・地震発生まで交通機関ストップか？宣言解除の可能性もあるということはどうすればよいか？ ・数時間内に地震が発生するのならば規制を我慢するが、1, 2日と伸びた場合の影響は？
伝達方法	・「判定会招集」：どのような方法で知ることができるか？(テレビ、ラジオ？) ・「警戒宣言」：発令方法(サイレンの音色、時間など具体的に)勤務時、社外、車で移動中等どのような場合でも発令を知ることができるのか？

(2) 警戒宣言発令時の規制内容など

警戒宣言発令時の規制内容などを具体的に示してほしいの声が多い。

項目	内容
サービス機関	・買い物の心配(コンビニ、小売店の品物状態)品不足になるのでは？ ・スーパー、コンビニ、ガソリンスタンドなどの営業 ・銀行の一部というのは、1つの店で一部のATMか？地域で一部のATMか？ ・個人開業医への規制は？ ・郵便局は？ ・発令時に使用可能な小売店、ATM、病院がどこなのか？
ライフライン	・電気の使用制限の理由を知りたい。 ・ガスのほうが危険と思われるのになぜ使用してよいのか？ ・ライフラインが本当に使用可能ならば、水をためる必要があるか？ ・「できるだけ使わない」というと、オール電化の家では何も使えない。また基準は人によって異なるので、どう考えればいいのかわからない。 ・光熱水使用の可否や営業停止について具体的に示してほしい。 ・電話は使わないようにとあるが家族との連絡を取り合う手段はどうなるのか？ ・鉄道全面ストップはどうかと思う。速度を落とし運行続行できないか？ ・緊急車両の走路確保状態の不安。

(3) 警戒宣言発令時の市民の行動

項目	内容
家族との連絡	・家族と連絡がとれるか心配。
避難先	・場所がわからない。 ・指定先が遠方、近くの小学校に行ってもよいか？

避難の情報連絡	・避難に関する指示方法 ・視覚聴覚弱者の情報入手方法 ・停電になったときの情報収集は？ ・避難するタイミング ・避難するように広報があるのか？
避難対象地区	・避難勧告など対象地区がわからない。
避難誘導	・バス電車停車時、地下街など、適切な避難誘導の対策がとられているか。
避難の判断	・避難したほうがいいのか、自宅にとどまるべきかわからない。
災害弱者の避難	・病人、要介護人、視覚障害者、足が不自由など身体障害者の避難先、避難方法 ・避難に手助けが要する場合どうすればいいか？
子供の避難	・帰宅後、再度指定避難場所へ避難すると手間がかかり危険では？また、交通規制で帰宅できない親が多いと、学生・園児は学校に残るべきでは？ ・親と会えない子供はどうするのか？ ・学校以外に子供がでかけているとき、どうすればいいか？
避難場所への持参物	・飲料、食料をどの程度（何日分）もっていけばいいのか？ ・各自の持ち込みはどの程度までいいのか？ ・用意する内容をもっと詳しく示してほしい。 ・対応が遅れ、準備できなかった人はどうなるのか？ ・最低限支給されるものとかないのか？（赤ん坊などへ）
避難場所での生活	・校庭に避難したときの状況がわからない。 ・大勢の人を管理できるのか？ ・避難場所は本当に安全か？ ・どうやって寝るのか？ ・長時間になった場合どうなるのか？ ・衛生面（トイレなど） ・ライフライン対策は？ ・食料が無くなった時どうするか？炊き出しはあるのか？ ・避難所で、救護体制、公衆電話、携帯電話は？
自宅での待機	・自宅にとどまったとき、食料が尽きるのが心配
天気・時間帯・場所による行動内容	・通勤途中（バス電車自家用車）、勤務先における避難など取るべき行動。 ・晴天時以外するとき、水害時などはどうすればよいか？配慮がほしい。 ・時間帯によって取るべき行動が違うのでは？ ・会社に居た場合、食料確保は無理。
その他	・病院に入院中の老親のケアはどうなるのか？ ・ペットをどうすればいいか？ ・防災任務を命令されている人はどうするのか？ ・発令時、町内でやることが決まっているのか？

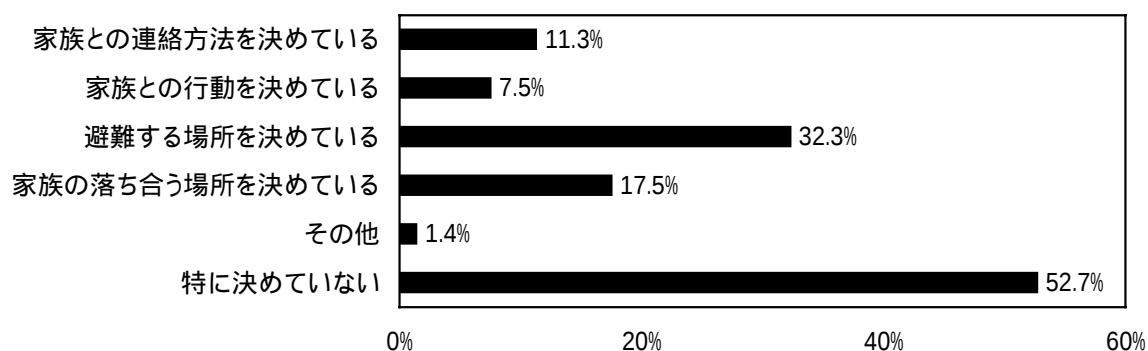
（４）行政機関などの対応

- ・消防隊、警察、役所の対応
- ・行動禁止令の発令はないのか？
- ・パニックが発生しないようにどう対処するか？
- ・交通渋滞などや事故発生時の対応
- ・民間会社の対応、行政指導はあるのか？会社判断で営業か？
- ・訓練がいきとどいているのか？（リーダー等）

【問 6】警戒宣言発令時の行動・避難などについて、お宅で決めているものは何かありますか？（○はいくつでも）

- | | |
|-----------------------------|---|
| 1．家族との連絡方法を決めている | |
| 2．家族の行動を決めている | |
| 3．避難する場所を決めている | |
| 4．家族が離れ離れになった時の落ち合う場所を決めている | |
| 5．その他（ | ） |
| 6．特に決めていない | |

「特に決めていない」が約 50%で最も多い。「3．避難場所を決めている」が多く、3 人に 1 人の割合でいる。



2.3 判定会招集、警戒宣言を知った時の行動について

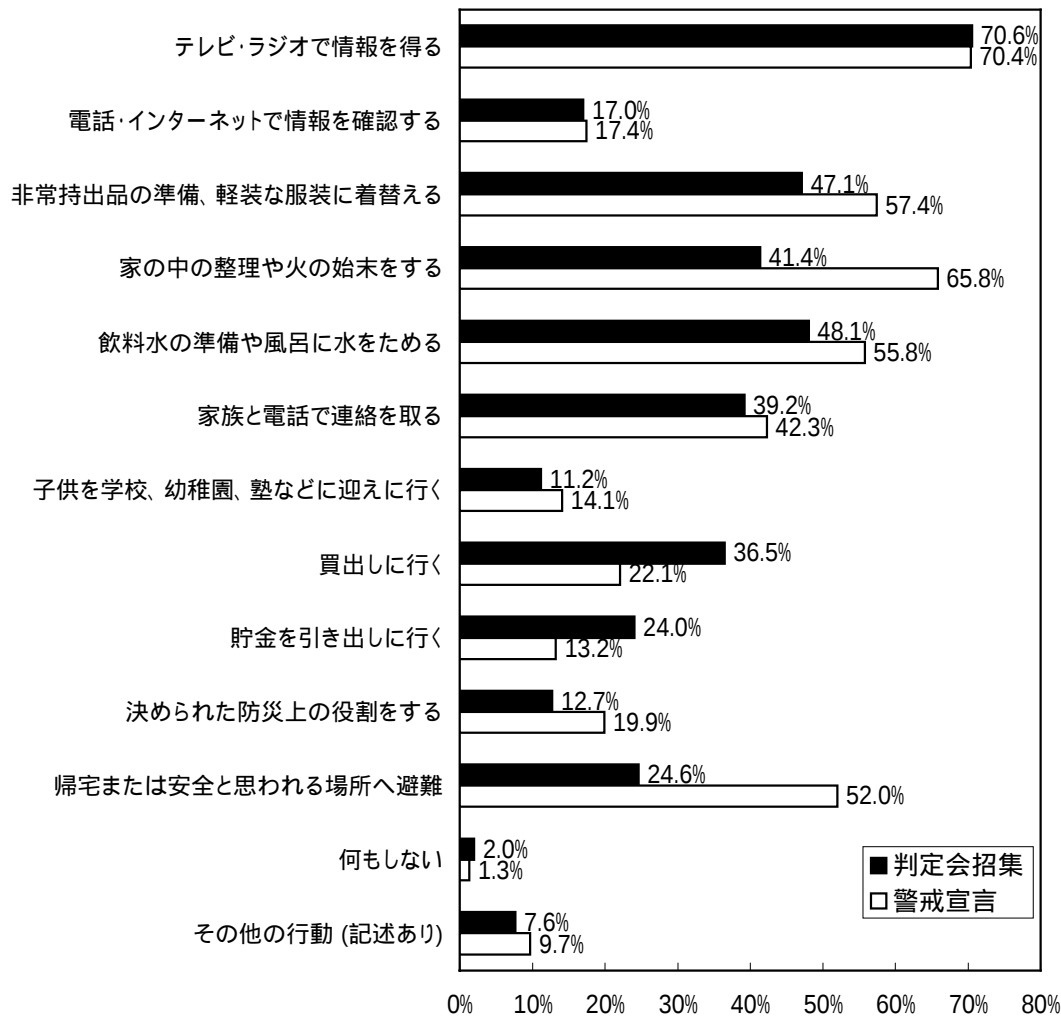
【問7】「判定会招集」「警戒宣言」を知ったとき、あなたは何をしますか？各段階で考えられる行動について（ ）に○をつけてください。また、その他の行動については具体的にご記入ください。（○はいくつでも）

	【判定会招集】	【警戒宣言】
1. テレビ・ラジオで情報を得る	()	()
2. 電話・インターネットで情報を確認する	()	()
3. 非常持出品の準備をしたり、軽装な服装に着替える	()	()
4. 家の中の整理や火の始末をする	()	()
5. 飲料水の準備や風呂に水をためる	()	()
6. 家族と電話で連絡を取る	()	()
7. 子供を学校、幼稚園、塾などに迎えに行く	()	()
8. 買出しに行く	()	()
9. 貯金を引き出しに行く	()	()
10. 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	()	()
11. 帰宅する、または安全と思われる場所へ避難する	()	()
12. 何もしない	()	()
13. 「判定会招集時」に行うと考えられるその他の行動 ()		()
14. 「警戒宣言時」に行うと考えられるその他の行動 ()		()

「判定会招集時」に行う行動で最も多いのが、「テレビ・ラジオでの情報を得る」、その後、「飲料水の準備や風呂に水をためる」「非常持ち出し品の準備をしたり、軽装な服装に着替える」「家のなかの整理や火の始末をする」「家族と電話で連絡を取る」「買出しに行く」が続く。

「警戒宣言時」に行う行動で最も多いのは、「判定会招集時」と同様に、「テレビ・ラジオでの情報を得る」、その後、「家のなかの整理や火の始末をする」「非常持ち出し品の準備をしたり、軽装な服装に着替える」「飲料水の準備や風呂に水をためる」「帰宅する、または安全と思われる場所へ避難する」が続く。

「判定会招集時」と「警戒宣言時」で比較すると、1. 2. あわせた情報収集、「家族との電話で連絡を取る」「子供を迎えに行く」は同程度であるが、「家のなかの整理や火の始末をする」「帰宅する、または安全と思われる場所へ避難する」は20%以上も高くなる。逆に、「買出しに行く」「貯金を引き出しに行く」は10%以上行動率が低くなる。



「その他」には、回答選択肢である 1 ～ 11 のなかにあてはまると思われる事柄を、細かく記載していただいた方が多かった。回答選択肢に含まれると考えられる以外の主な記入内容を以下に示す。

【判定会招集時】

- ・町内・知人・近所・家族で相談する。
- ・会社へ連絡する。職場の状況で行動する。
- ・避難所確認。病人の避難場所を考える。
- ・遠方の親戚友人に状況、避難場所を知らせる。
- ・子供とはぐれた場合のために手紙を書く。
- ・車を安全な場所へ移動。車にガソリンをいれる。
- ・できるだけ震源地から離れる。
- ・公民館の役員に至急対策会議をお願いする。
- ・1 ～ 11 の選択肢以外にやることがあれば、行政から教えてほしい。

【警戒宣言発令時】

- ・近所の人と相談。
- ・親類、友人、知人と連絡をとる。
- ・家内で安全な場所の確認。
- ・避難場所、避難路の確認。
- ・自家用車などの安全な場所への移動。
- ・発電機の整備、ガソリン確保、オートバイ整備、船の整備。
- ・自宅への放水の準備、家屋の補強など。
- ・場合によっては、他の地方や海外へ行く。
- ・パニックになる可能性あり

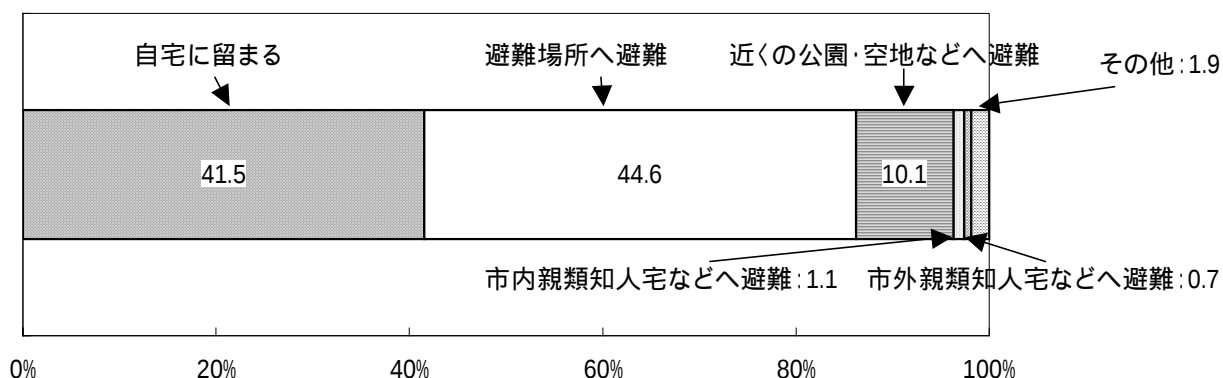
2.4 自宅にいる時の避難について

【問8】判定会招集・警戒宣言発令の情報を知った場合どこに避難しますか？（○はひとつ）

1. 自宅に留まる（避難しない）
2. 避難場所へ避難する
3. 近くの公園・空地などへ避難する
4. 市内の親類・知人宅などへ避難する
5. 市外の親類・知人宅などへ避難する
6. その他（ ）

判定会招集時、警戒宣言発令時には、「1. 自宅に留まる」が約42%、「避難する」は回答選択肢2～5をあわせて約57%である。「2. 避難場所へ避難する」は「1. 自宅に留まる」より若干多い約45%であった。各区別に見ても同様の傾向だが、千種区、西区、熱田区などの区では「3. 近くの公園・空地などへ避難する」がやや高くなっている。

自宅の耐震性別に見ると、「耐震性あり」選択の人は自宅に留まる率が高く約60%である。一方、「耐震性なし」選択の人は「自宅に留まる率」が約32%しかない。



また、「６．その他」の主な記入内容としては、以下のような回答が寄せられた。

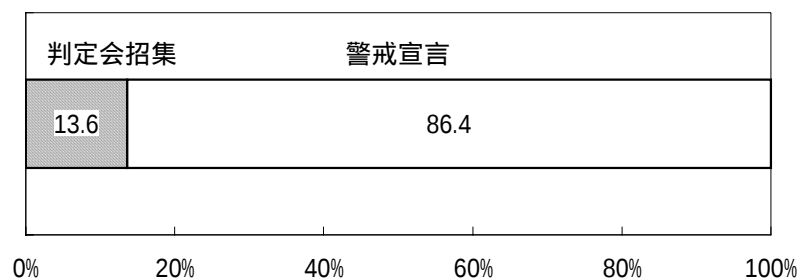
- ・「自宅に留まる」か「避難する」か状況に応じて異なる。
- ・「避難場所」か「近くの公園空き地」か状況によって異なる。
- ・実家へ。
- ・親が入院している病院。
- ・仕事、学区本部、消防団詰所。

【問９】問８で避難すると答えた方にお聞きします。判定会招集・警戒宣言のどちらの情報を知った時に、避難しますか？ただし警戒宣言時はバス・鉄道は運行中止、道路は交通規制されます。（○はひとつ）

１．判定会招集	２．警戒宣言
---------	--------

問８で、２．３．４．５を回答した 524 人を対象に集計した。

「判定会招集」で約 14%が避難、「警戒宣言」とともに 86%が避難するという結果が得られた。自宅の「耐震性あり」の場合は、「耐震性なし」に比べ、判定会招集時における避難率が 5%ほど低い。



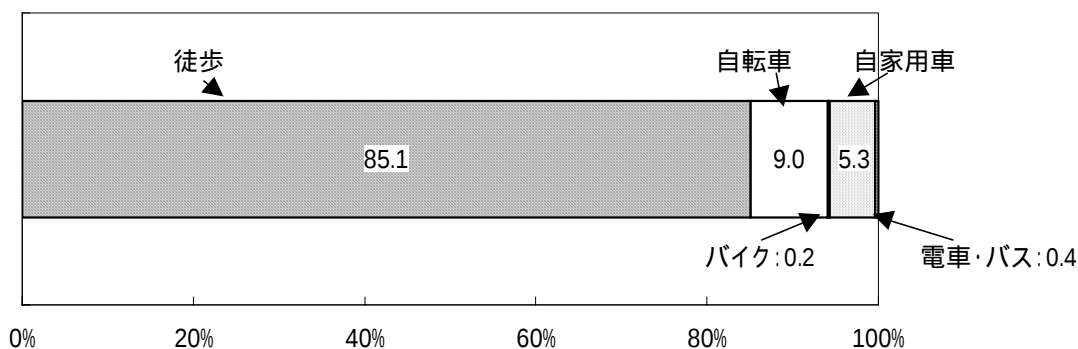
【問１０】問８で避難すると答えた方、何を使って避難しますか？ただし警戒宣言時はバス・鉄道は運行中止、道路は交通規制されます。(主な手段ひとつに○)

1．徒歩	2．自転車	3．バイク
4．自家用車	5．電車・バス	6．その他()

問８で、２．３．４．５を回答した５２４人を対象に集計した。

「徒歩」が約８５%、「自転車」とあわせると約９４%となるが、自家用車で避難を考えている方が約５%いる。「その他」としては、タクシーと記述した方がいた。

避難先・避難時期別交通手段の集計によると、「避難場所」「近くの公園」どちらへ避難する場合も、「判定会招集時」「警戒宣言時」問わずに、徒歩・自転車で避難する人が９割以上を占める一方、自家用車利用が２.４～８.５%もいる。



避難先	避難時期	合計	徒歩	自転車	バイク	自家用車	電車・バス	その他	合計
避難場所へ避難	判定会	47	83.0	8.5	0.0	8.5	0.0	0.0	100.0
	警戒宣言	369	88.9	8.7	0.0	2.4	0.0	0.0	100.0
近くの公園・空地などへ避難	判定会	14	85.7	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	警戒宣言	80	82.5	10.0	0.0	7.5	0.0	0.0	100.0
市内の親類・知人宅などへ避難	判定会	4	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	100.0
	警戒宣言	6	16.7	16.7	16.7	50.0	0.0	0.0	100.1
市外の親類・知人宅などへ避難	判定会	5	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	100.0
	警戒宣言	1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0

通勤通学されている方は、勤務先・通学先にいる時の行動について、それ以外の方は買い物等でよく外出する先を一箇所思い浮かべて、お答えください。

【目的】

- 【☒】

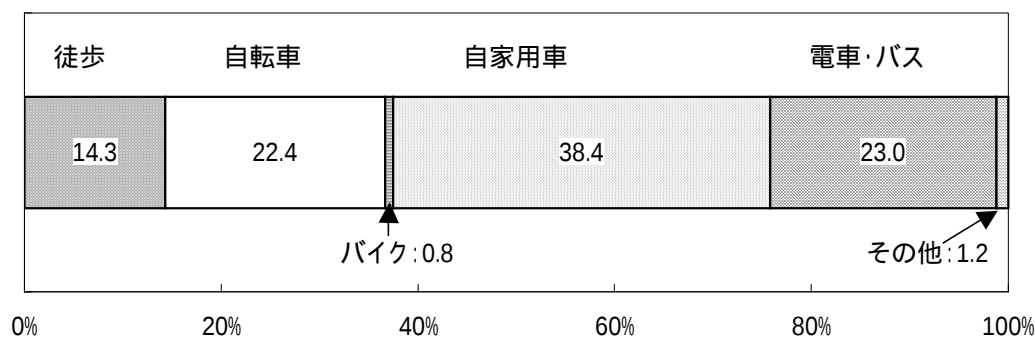
- 「自由目的」を想定した人が約46%、「通勤・通学」を想定した人があわせて約35%である。「その他目的」としては、「外出しない」「会社と社宅が同一」と記入された人と、通勤・業務・自由目的の具体的内容（パチンコ屋、通院、会議、実家、ボランティア、ゴルフ場、作業所）を記入された人がいた。

17

【問 1 2】通勤・通学・外出の手段（主な手段をひとつ。）

1 . 徒歩	2 . 自転車	3 . バイク
4 . 自家用車	5 . 電車・バス	6 . その他()

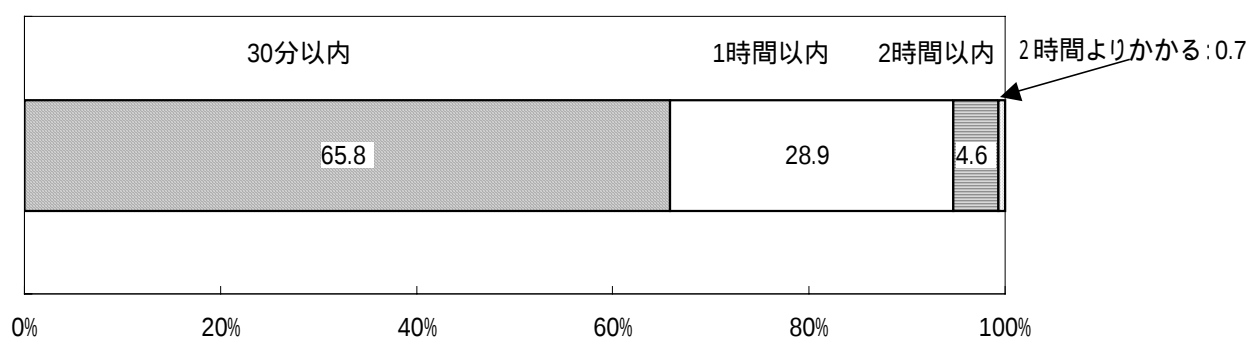
自家用車が最も高く約 4 割、徒歩・自転車があわせて約 4 割、公共交通機関である電車・バスも約 2 割いる。「その他」には、通勤必要なし、タクシー、社有車などと記入された人がいた。市外外出では、自家用車比率が約 6 割と高い。



【問 1 3】勤務先・学校・外出先までかかる時間（○はひとつ）

1 . 30分以内	2 . 1 時間以内
3 . 2 時間以内	4 . 2 時間よりかかる

1 時間以内の外出を想定された方が約 95%である。

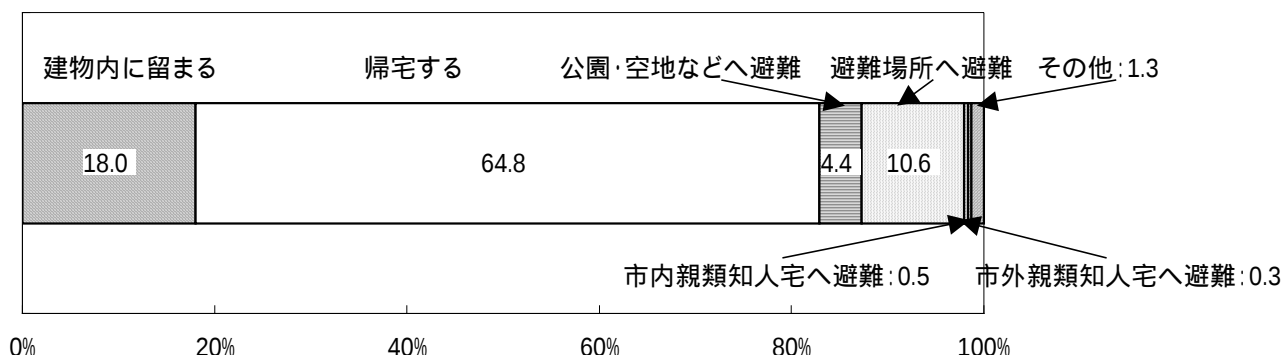


【問１４】判定会招集・警戒宣言情報を知った場合、避難・帰宅しますか？ 勤務先・学校で指示が決まっている場合にはその指示を前提としてお答えください。（○はひとつ）

- １．勤務先・通学先・外出先の建物内に留まる
- ２．帰宅する
- ３．近くの公園・空地などへ避難する
- ４．近くの避難場所へ避難する
- ５．市内の親類・知人宅などへ避難する
- ６．市外の親類・知人宅などへ避難する
- ７．その他（ ）

「帰宅する」「市内の親類・知人宅などへ避難する」「市外の親類・知人宅などへ避難する」を選択された人があわせて約 66%、「勤務先・通学先・外出先の建物内に留まる」人が約 18%、「近くの公園・空地などへ避難する」「近くの避難場所へ避難する」人が約 15%であり、１．３．４の回答者合わせて約 33%が出先に滞留する可能性がある。

外出目的別に見ると、「自由目的」の「帰宅する」率は約 73%とやや高めである。「通勤」の人は、「勤務先・通学先・外出先の建物内に留まる」率が他目的外出者よりもやや高い。外出先が市外の場合は、市内（約 17%）よりも「外出先の建物内に留まる」率が約 39%と高い。

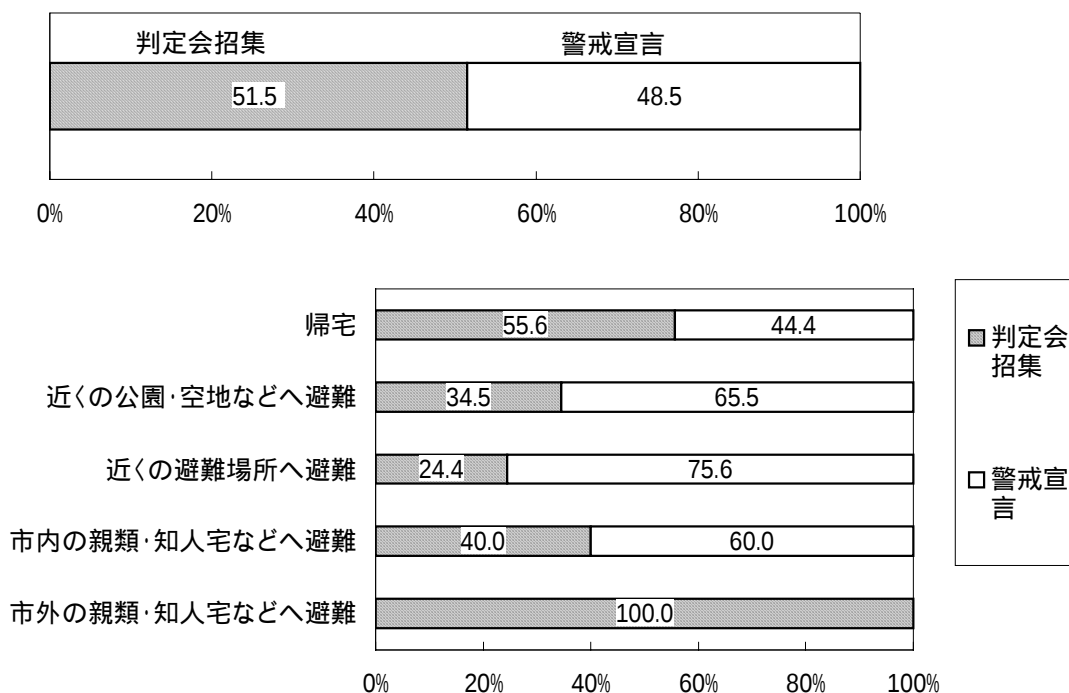


「その他」には、仕事優先、勤務先の判断にまかせる、状況次第という回答があった。また、わからないの回答もあった。

【問 1 5】問 1 4 で避難・帰宅する方にお聞きします。判定会招集・警戒宣言のどちらの情報を知った時に、避難・帰宅されますか？ただし、警戒宣言時は、バス・鉄道は運行中止、道路は交通が規制されます。(○はひとつ)

1 . 判定会招集	2 . 警戒宣言
-----------	----------

判定会招集、警戒宣言、各段階での避難・帰宅が約 5 割ずつ、若干判定会招集で避難・帰宅率が高い。



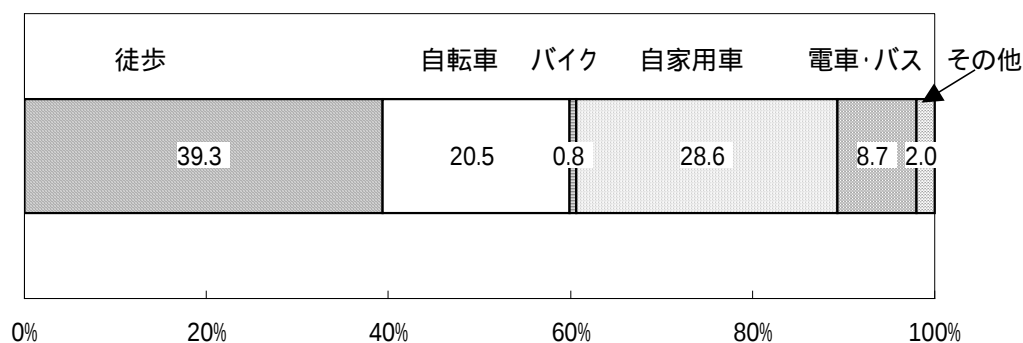
外出手段別に見ると、電車・バス利用者は、判定会招集時に避難・帰宅する率が約 72% と高い。これは、警戒宣言時に、バス・鉄道は運行中止、道路交通が規制されることを設問で説明したことを受けての回答と考えられる。

避難帰宅先との関係では、帰宅する人は、判定会招集段階が警戒宣言時よりも 10%程度多い。近くの公園・空地、近くの避難場所へ避難する人は、警戒宣言時のほうが多い。

【問 1 6】問 1 4 で避難・帰宅すると答えた方、何を使って避難・帰宅しますか？ただし、警戒宣言時は、バス・鉄道は運行中止、道路は交通が規制されます。（主な手段ひとつに○）

1 . 徒歩	2 . 自転車	3 . バイク
4 . 自家用車	5 . 電車・バス	6 . その他()

徒歩・自転車利用が約 60%、自家用車利用が約 29%、電車・バス利用者が約 9%である。警戒宣言時には、バス・鉄道は運行中止、道路は交通が規制されることを設問に明記しているにもかかわらず、自家用車利用の人が判定会招集時帰宅者と同率約 29%程度いる。



【問 11～16 の分析】

問 11 の外出目的・外出先別に、避難帰宅場所・避難帰宅時期・避難帰宅交通手段などを詳しく分析した。避難帰宅場所・避難帰宅時期・避難帰宅交通手段の全回答者を対象に避難帰宅行動の傾向を分析した。複数項目のクロス集計のため、比率(%)は傾向を見るためのものであり、回答数からみると統計的意味を持たないところもある。

外出先・目的	回答者数	外出先に留まる	避難帰宅場所・避難帰宅時期・避難帰宅交通手段の傾向
市内通勤	257 人	72 人(28.0%)	90%が帰宅、判定会招集と警戒宣言でほぼ半分ずつ帰宅。 判定会招集時では、自家用車利用(33%)、電車バス(25%)の比率が高い。ついで自転車、徒歩と続く。 警戒宣言時では、徒歩が 35%と最も高いが、ついで自家用車利用 31%、自転車 26%、電車・バス 5.2%が続く。 公園・避難場所に避難が 8.4%、市内外知人宅に避難の方も 1.8%程度いる。

市内業務	132 人	27 人(20.5%)	85%が帰宅、警戒宣言時のほうが帰宅率高いやや高い。 判定会招集時では、自家用車利用率が最も高い(46%)。ついで徒歩、自転車、電車・バス利用と続く。 警戒宣言時では、自家用車利用率が最も高い(47%)。ついで徒歩、自転車と続く。電車バス利用はなし。 公園・避難場所に避難が 14%、市内外知人宅に避難の方は 1%(1 人)いる。
市内自由目的	397	36 人(9.1%)	84%が帰宅、判定会宣言時帰宅が 62%。 判定会招集時では、利用率が高い順に、徒歩 35、自家用車(29%)、自転車(25%)、電車バス(7.6%)。 警戒宣言時では、利用率が高い順に、徒歩 44、自転車(29%)、自家用車(24%)、電車バス(2.9%)。 近くの公園・避難場所に避難が(15%)、市内外知人宅に避難の方は 1%未満(2 人)。
市内通学目的	9	1 人(11.1%)	5 割帰宅、5 割が近くの避難場所へと回答している。
市外	66	26(39.4%)	95%が帰宅、判定会宣言時のほうが帰宅率やや高い。 判定会招集時では、利用率が高い順に、自家用車(55%)、電車バス(20%)、徒歩、自転車。 警戒宣言時では、利用率が高い順に、自家用車(69%)、電車バス(20%)、徒歩、バイク。 公園・避難場所へ避難は 5.6%。(2 人)
県外	10	0(0%)	8 割が帰宅、判定会・警戒宣言で同率。全員、自家用車などの車(両時期)・電車バス(判定会)による帰宅。 2 割が近く公園・避難場所へ避難。

「その他・不明」の数は除いて集計した。

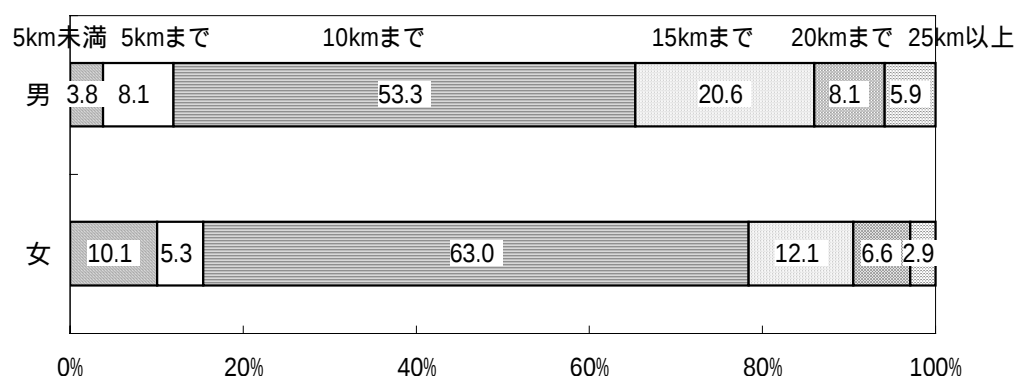
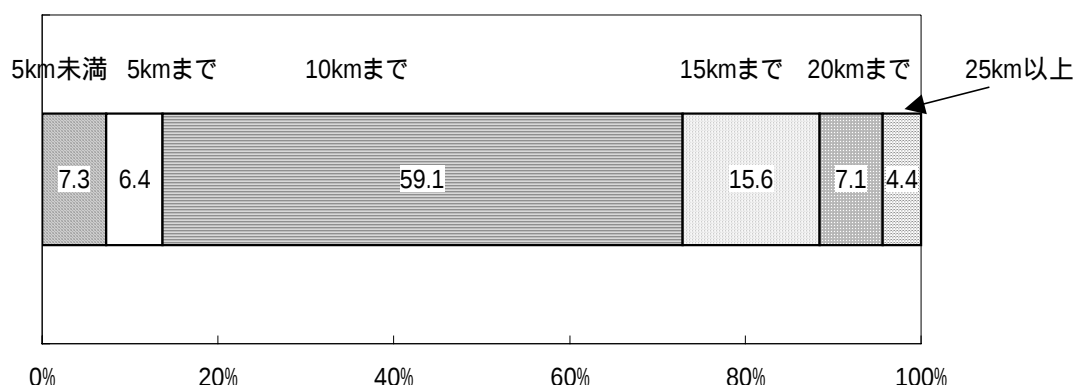
【問 1 7】警戒宣言発令によりバス・鉄道の運行が中止、道路も交通規制がひかれた場合、外出先から帰宅するために何 km 程度ならば歩いて帰りますか？ 問 1 1 で答えられた外出先とは関係なく、徒歩可能と思われる距離をお答えください。（○はひとつ）

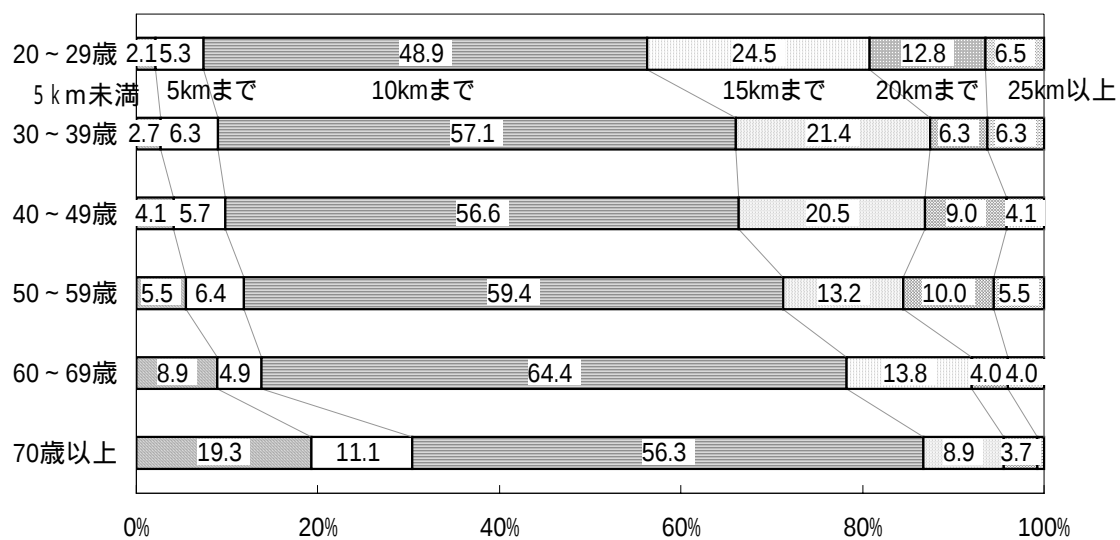
1 . 10km まで	2 . 15km まで	3 . 20km まで
4 . 25km まで	5 . 30km まで	6 . () km まで

歩行速度 80m/分（不動産の表示に利用される）だと 1 時間に 4.8km 歩けますが、警戒宣言時は、道路混雑、また道路が不案内などで歩行速度が落ちることが考えられます。

10km までなら徒歩帰宅可能が約 60%と最も高かったが、徒歩帰宅可能は 10km 未満と回答する人が約 14%もいた。15、20km までなら徒歩帰宅可能な方が約 23%、25km 以上でも可能と答えた方は約 4%程度であった。

男女別では、男性のほうが若干徒歩帰宅可能距離を長く回答している傾向がある。また、年齢別では、高齢者ほど徒歩帰宅可能距離が短くなる傾向が顕著であり、70 歳以上では約 30%が徒歩帰宅可能は 10km 未満と回答した。



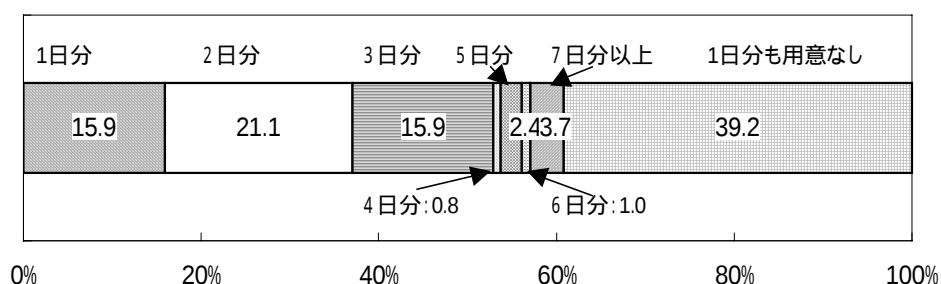


2.6 現在の食料・飲料水などの自宅での備蓄について

【問18】非常持出用として何日分の食料を自宅で備蓄していますか？（○はひとつ）

1. 1日分	2. 2日分	3. 3日分
4. 4日分	5. 5日分	6. 6日分
7. 7日以上	8. 1日分も用意していない	

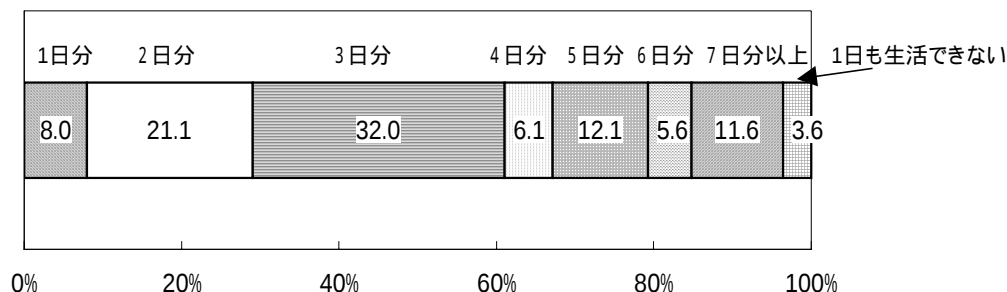
3日分以上用意している人が約24%、1, 2日分用意が約37%、1日分も用意していない人は約40%もいる。年齢による差が大きく、20歳代では1日分も用意していない人が60%もいる。70歳以上では、3日以上の備蓄が約37%、7日以上備蓄している人は約7%もいる。



【問19】食料を購入できなくなった場合、現在自宅にある食料（非常持出用とその他の在庫保存食など含んだもの）で、何日間生活できると思いますか？（○はひとつ）

1. 1日分	2. 2日分	3. 3日分
4. 4日分	5. 5日分	6. 6日分
7. 7日以上	8. 1日も生活できない	

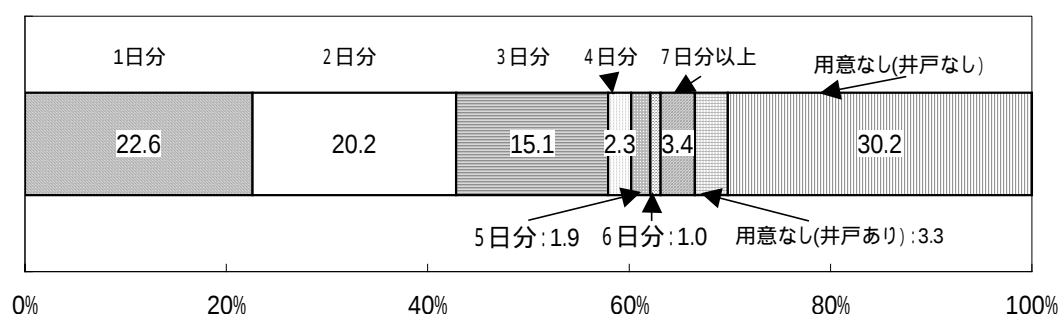
3日分以上生活できるとする人が約7割である。年齢による差も問18ほどなく、若い人は、非常持出品としての準備は少ないが、在庫保存食を含めた食料品の買い置きなどは高齢者に比べ多いことが推測される。



【問 2 0】何日分の飲料水を自宅で備蓄していますか？ 1 人 1 日当り 3 リットル必要としてお答えください。(○はひとつ)

1 . 1 日分	2 . 2 日分	3 . 3 日分
4 . 4 日分	5 . 5 日分	6 . 6 日分
7 . 7 日分以上	8 . 用意なし(井戸あり)	9 . 用意なし(井戸なし)

「3 日分以上備蓄」が「井戸がある人」も含めると約 3 割である一方、用意していない人も 3 割もいる。食料備蓄と同様に、若い年代の人の備蓄率が低く、20 歳代では約 5 割が飲料水を備蓄していない。

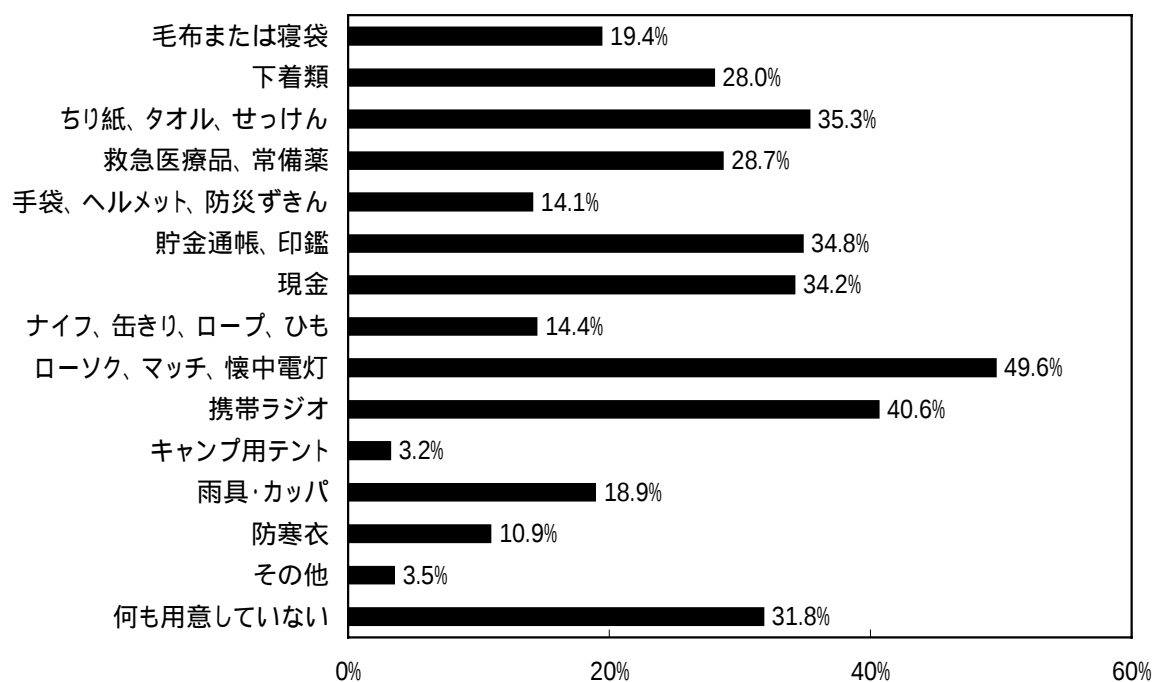


【問 2 1】食料、飲料水の他に非常持出品として何を用意していますか？(○はいくつでも)

1 . 毛布または寝袋	2 . 下着類
3 . ちり紙、タオル、せっけん	4 . 救急医療品、常備薬
5 . 手袋、ヘルメット、防災ずきん	6 . 貯金通帳、印鑑
7 . 現金	8 . ナイフ、缶切り、ロープ、ひも
9 . ローソク、マッチ、懐中電灯	10 . 携帯ラジオ
11 . キャンプ用テント	12 . 雨具・カッパ
13 . 防寒衣	14 . その他()
15 . 何も用意していない	

「ローソク、マッチ、懐中電灯」を用意している場合が最も多く、約半数の人が用意している。「下着」「ちり紙、タオル、せっけん」「貯金通帳、印鑑」「現金」「携帯ラジオ」なども 3 人に 1 人程度は用意している。季節・天候状態を想定しての「雨具」「防寒衣」「毛布・寝袋」の準備は 10～20%程度と少ない。

年齢別に見ると、キャンプ用テントを除いたどの持出品も高齢者ほど準備率が高い。また、20 歳代～30 歳代は、何も用意していない率が約 40～50%と他の年代に比べて高い。



「14．その他」には、以下のような記入があった。

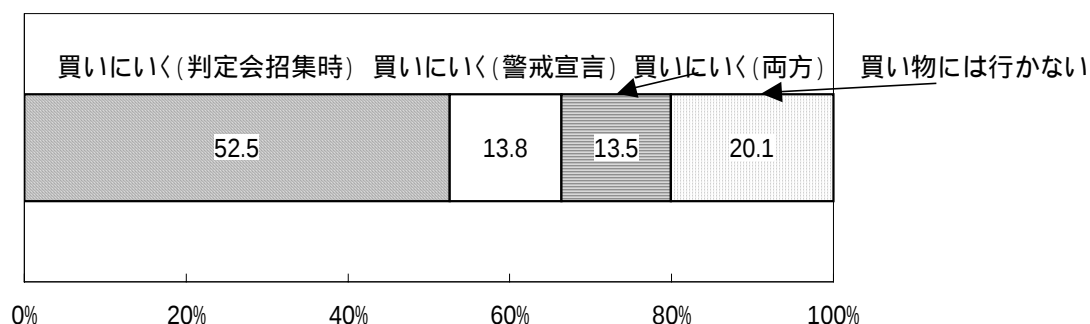
種類	項目
連絡を取るもの	携帯電話、テレホンカード、連絡先の電話番号帳、笛
身分証明類	保険証、パスポートのコピー
履物	靴、スリッパ
筆記用具	メモ用品、マジック、紙
調理用品	飯ごう、やかん、鍋、カセットコンロ、ガスセット、ラップ
個人の重要品	メガネの予備、つえ、車いす
アウトドア用品関係	ランプ、ビニールシート、なた、スコップ、カイロ、トイレ、ごみ袋、輪ゴム
その他	ペットの物、地図、折りたたみカート

2.7 判定会招集、警戒宣言発令による買い物について

【問22】判定会招集、警戒宣言発令などの情報を知った場合、食料品・飲料水を買いにいきますか？（○はひとつ）

1. 買いに行く（判定会招集時）
2. 買いに行く（警戒宣言発令時）
3. 買いに行く（判定会招集・警戒宣言の両方）
4. 買い物にはいかない

約8割の人が買い物に行くと考えており、「判定会招集時」に買い物に行く人は、判定会招集・警戒宣言の両方で買い物に行く人と合わせて約7割、「警戒宣言発令時」に買い物に行く人は判定会招集・警戒宣言の両方で買い物に行く人と合わせて約3割である。



問18, 19で非常持出用食料、食料在庫が7日分以上あると回答した人、問20で6日以上飲料水があると回答した人は、他よりも「買い物にはいかない率」が高めであるが、3日分程度の非常持出用食料、食料在庫、飲料水の確保の人は、8割程度が買い物に行くと考えている。

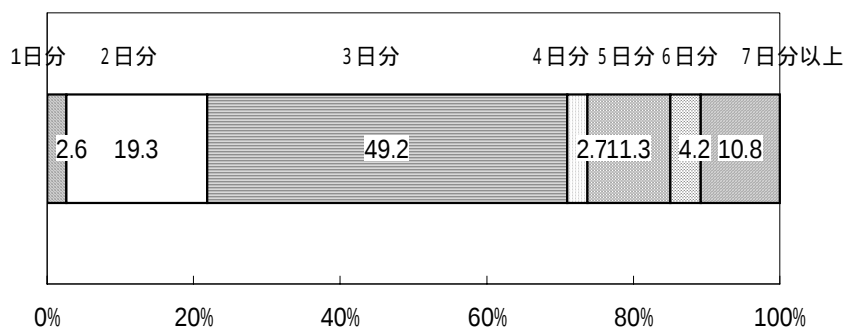
		買いに行く (判定会招集時)	買いに行く (警戒宣言発令時)	買いに行く (判定会招集時・ 警戒宣言発令時 の両方)	買い物には行か ない
問18	1日分	53.6	15.2	10.6	20.5
	2日分	55.1	15.1	10.2	19.5
	3日分	44.4	11.8	17.0	26.8
	4日分	37.5	0.0	12.5	50.0
	5日分	54.5	0.0	18.2	27.3
	6日分	50.0	20.0	10.0	20.0
	7日分以上	37.1	2.9	22.9	37.1
	1日も用意なし	55.4	15.3	14.2	15.0

		買いに行く (判定会招集時)	買いに行く (警戒宣言発令時)	買いに行く (判定会招集時・ 警戒宣言発令時の両方)	買い物には行かない
問 19	1 日分	54.5	11.7	13.0	20.8
	2 日分	50.5	18.8	15.4	15.4
	3 日分	57.6	12.6	13.3	16.5
	4 日分	49.2	13.6	16.9	20.3
	5 日分	55.1	11.9	6.8	26.3
	6 日分	43.6	18.2	20.0	18.2
	7 日以上	36.3	12.4	15.0	36.3
	1 日も用意なし	72.7	6.1	12.1	9.1

		買いに行く (判定会招集時)	買いに行く (警戒宣言発令時)	買いに行く (判定会招集時・ 警戒宣言発令時の両方)	買い物には行かない
問 20	1 日分	53.0	15.5	12.3	19.2
	2 日分	56.7	6.7	14.4	22.2
	3 日分	49.0	12.9	14.3	23.8
	4 日分	39.1	8.7	26.1	26.1
	5 日分	72.2	5.6	0.0	22.2
	6 日分	10.0	30.0	10.0	50.0
	7 日以上	42.4	3.0	9.1	45.5
	用意なし(井戸あり)	46.9	21.9	6.3	25.0
	用意なし(井戸なし)	54.3	18.4	14.3	13.0

3 日以上購入予定者が約 8 割、7 日以上購入する人も約 1 割いる。日常の備蓄別に見ると、日頃から準備している人ほど購入食料品日数分が高い傾向がある。防災意識があるほど購買行動に出る率が高いといえるかもしれない。

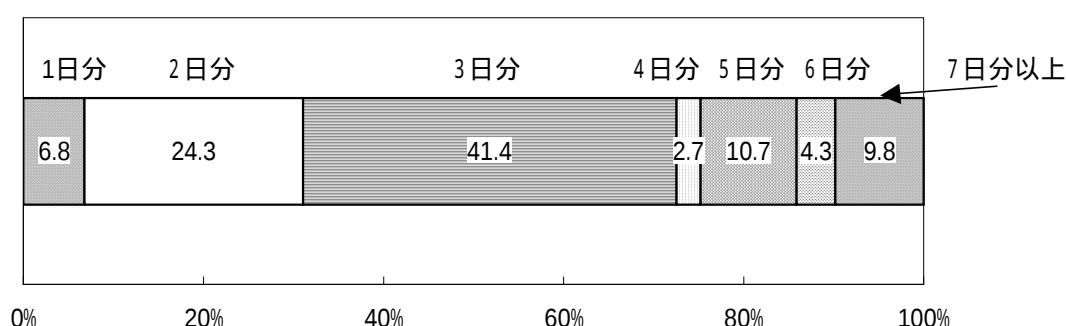
また、年齢別にみると、7 日以上購入すると回答されている率は、20 歳代、30 歳代が高い。



【飲料水】 1人1日3リットル必要としてお答えください。(○はひとつ)

1 . 1日分	2 . 2日分	3 . 3日分
4 . 4日分	5 . 5日分	6 . 6日分
7 . 7日以上		

3日分以上購入予定者が約7割、7日分以上購入予定者も約1割いる。食料と同様に、日頃から準備している人ほど購入飲料水日数分が高い傾向があり、また年齢別にみると、7日以上購入すると回答されている率は、食料品購入と同様20歳代、30歳代が目立って高い。



【その他】 食料、飲料水以外に買うもの。(自由に記述してください)

「14. その他」には、以下のような記入があった。飲食料関係ではあるが、乳児のミルクという記入もあった。

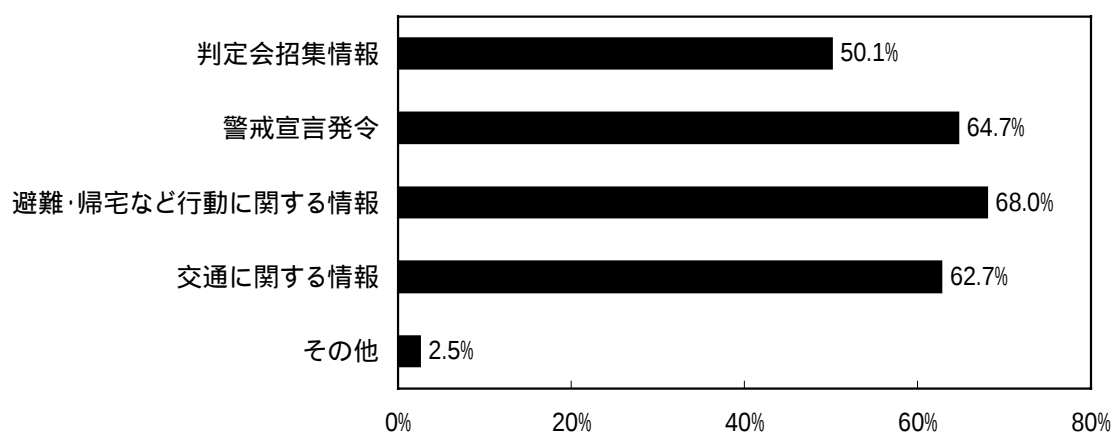
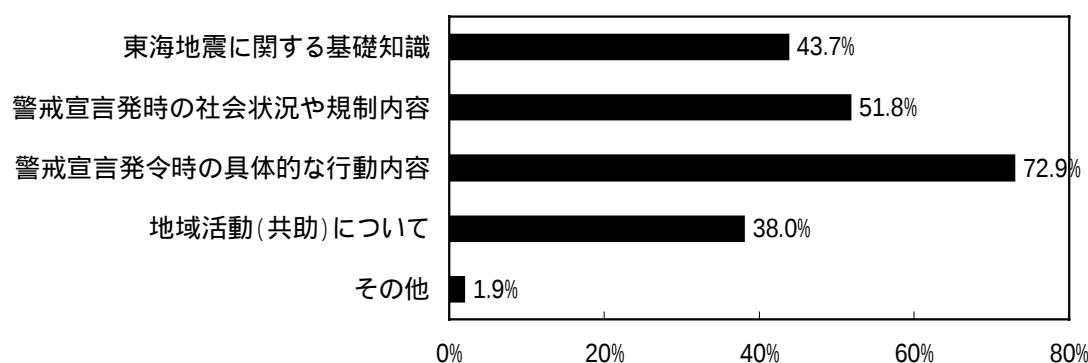
種類	項目
燃料など	乾電池、ガソリン給油、バッテリー、発電機用燃料
救急医療品、常備薬	薬、常備薬、バンドエイド、マスク、消毒薬、傷薬、包帯、医療用品
衣類など	下着、靴、衣類
ライフライン（灯り・火）	懐中電灯、ろうそく、マッチ、ガスライター、ジッポライターのオイル
衛生用品	トイレットペーパー、ティッシュペーパー、紙おむつ、生理用品、ドライシャンプー、タオル、バスタオル、ウェットティッシュ、おしりナップ、ボディ洗剤、歯磨き、歯ブラシ、おしぼり、コンタクト洗浄液
嗜好品	たばこ、酒
身の安全を守るもの	防災頭巾、ヘルメット、消火器、転倒防止用具
情報・連絡関係	信号紅炎、トランシーバー、インマルサット電話、EPIRB、携帯のバッテリー、テレホンカード、ラジオ
筆記用具	筆記用具
個人の重要品	コンタクトレンズ、導尿用カテーテル

2.8 市に望むことについて

【問25】警戒宣言が発令された場合、ある程度皆さん自身による対策・適切な行動（自助）、地域による活動（共助）が求められます。そのためには、行政からどのような情報を提供してほしいですか？（○はいくつでも）

【日常からの情報提供】	【緊急時の情報提供】
1. 東海地震に関する基礎知識	1. 判定会招集情報
2. 警戒宣言発時の社会状況や規制内容	2. 警戒宣言発令
3. 警戒宣言発令時の具体的な行動内容	3. 避難・帰宅など行動に関する情報
4. 地域活動（共助）について	4. 交通に関する情報
5. その他（ ）	5. その他（ ）

日常からの情報提供としては、「警戒宣言発令時の具体的な行動内容」の選択が約7割と最も高い。緊急時の情報提供としては、「避難・帰宅など行動に関する情報」提供を望む声が最も高い。



「その他」の主な記入内容を以下に示す。解りやすく、字は大きく情報提供してほしいなどの記入もあった。

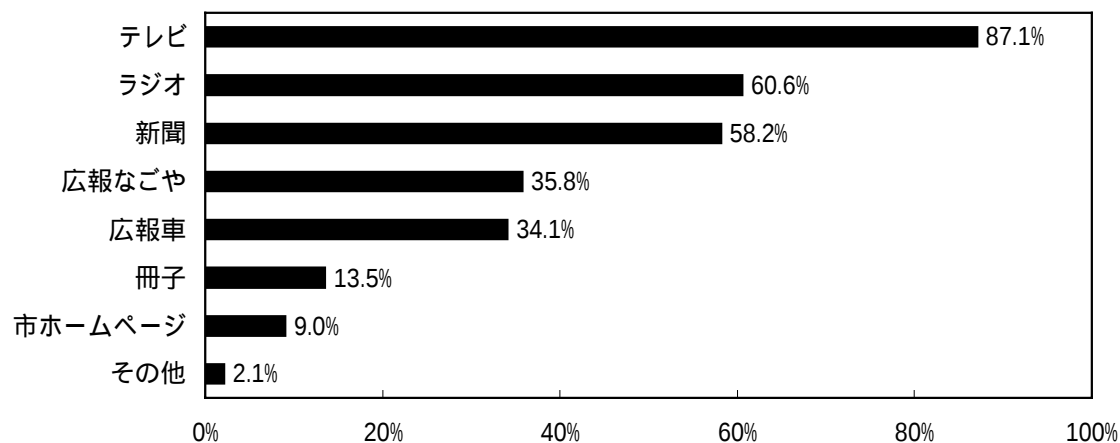
いつ	内容
日常からの情報提供内容	行政の対策・活動内容など ・行政の活動内容 ・本部の所在 ・県や他の市町村との連帯について ・備蓄内容と場所 緊急時の行政からの連絡方法 避難場所など警戒宣言時・地震発生時に必要となる情報 ・避難場所所在地の地図 ・危険な場所や安全な避難方法 ・道路情報 ・救急病院の所在と指定数 ・緊急時の手当ての方法や救助方法の情報 日常用意するもの
緊急時の情報提供内容	避難および行政活動情報 ・町内別にどのように行動すべきか ・避難状況 ・避難所の食糧配給状況 ・消防、医療機関の情報 ・自治体、警察、消防などの市民に対する具体的援助 ライフラインの情報 ・電話等の通信機能に関する情報 ・ライフラインに関する情報 ・地殻変動及び水道、水害被害 その他 ・パニックを防ぐ情報の提供 ・被害予想情報、余震情報 ・今後の見通し

【問 2 6】問 2 5 で選ばれた情報をどのような広報媒体で提供してほしいですか？（○はいくつでも）

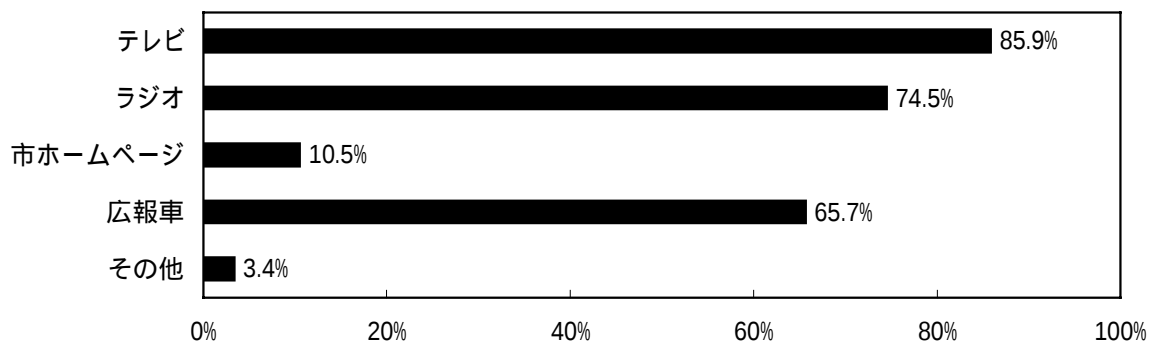
【日常からの情報提供】	【緊急時の情報提供】
1．テレビ	1．テレビ
2．ラジオ	2．ラジオ
3．新聞	3．市ホームページ
4．広報なごや	4．広報車
5．広報車	5．その他（ ）
6．冊子	
7．市ホームページ	
8．その他（ ）	

日常からの情報提供方法としては、テレビ・ラジオ・新聞の要望が高い。緊急時の情報提供としては、テレビ・ラジオのほか広報車という要望も高い。

【平常時】



【緊急時】



「８．その他」の主な記入内容

いつ	手段
日常からの情報提供方法	電話、携帯電話 eメール 防災無線 消防車 各町内会、組からの通報、回覧板、学校からの連絡 地震対応マニュアル本、ポスター、バスの時刻表 ヘリコプター
緊急時の情報提供方法	サイレン ヘリコプター放送、広報航空機 防災無線 学校や企業のスピーカー 有線放送 eメール 町内より、地震消防団と公民会役員から

東海地震に関すること、また市の地震防災への取り組みなどについて日頃から考えられていることを、ご自由にお書きください。

１．はじめに

自由記述欄にはさまざまな意見が多数寄せられた。主な記載内容を「日常からの情報提供」「警戒宣言時の情報提供」「地震後の情報提供」「災害弱者関係」「心配な地震被害」「提案・要望」にまとめて次ページより掲載する。情報提供に関しては、日常・警戒宣言時など記述がなかったものについてはどちらかを類推して分類したものもある。同様の意見はひとつにまとめて記載し、また記載文章は簡略化して掲載してある。

ここに記載した以外には、個人で具体的にしている災害準備や心構えを記述する人も多く、またこのアンケートを機会にいろいろと考え備蓄などをしようと思ったなどという意見も寄せられた。

２．日常からの情報提供

- ・区ごとでなく、町、村ごと細かい地域単位で学校などで集まって説明書配布、説明をしてほしい。
- ・冊子（災害発生時に市民が取るべき行動、予想される二次災害、日常から心がけること、市内の地図、避難場所、警戒宣言時にも利用できる店、ＡＴＭ、病院等）をつくり、各家庭に配布。
- ・予想される社会混乱状態。生活に戻るのに何日かかるか。
- ・新聞やテレビで情報を常に流して欲しい。
- ・建物の細かな危険箇所の指摘。
- ・阪神大震災のビデオ、被災者の話など。
- ・地盤の強弱・断層の有無方向など分析可能なこと、地域によって受ける地震被害の差異など調査済なことを公表してほしい。
- ・団地管理組合の防災組織が機能するか心配。行政から組合幹部の意識向上、体制強化を指示、実行させてほしい。
- ・非常食の購入先、価格を教えてほしい。
- ・避難に最低限必要な持ち物。具体的な品目。避難経験者のアドバイス、具体的に。証書や印鑑などはどこまで必要か？
- ・防災訓練を町ぐるみでやってほしい。
- ・もっと細かな情報や取り組みを知りたい。１人１人の対策方法も。
- ・公的機関でやってくれることを明らかにしてほしい。
- ・東海、東南海、南海、関東大地震の一連の関連性を含めた知識と対策。
- ・老人にもわかりやすい情報提供。
- ・地震発生したらどうなるかのシミュレーションをテレビ、新聞で定期的に流す。
- ・避難場所となるところに多数の看板設置
- ・図書館で見られるように
- ・パニックをおこさないためには？うわさを信じないで正しい判断をするには？弱者のことを考え、助け合って困難を乗り越えるためには、どうすればいいか？
- ・地震に対する全ての情報を知っておきたい。震災後の復旧の見通し。
- ・日頃から注意を促す家庭にはっておけるようなわかりやすい標語。（寝る前に水の汲みおきしましょう！など）
- ・防災訓練の場で、備蓄について強く PR

- ・東海地震、東南海地震の同時多発についてあまり PR がされていない。
- ・確実にくる日時が 1 日くらいの誤差でわかればよい。
- ・子供の頃からどのようにするべきか教えていく必要。
- ・建物の被害程度など、地震時の被害を知りたい。
- ・既往の大災害などの被災状況やどのように立ち直ったのか？、もっと詳しく知り心の準備をしたい。

3 . 警戒宣言時の情報提供

警戒宣言時に不安なことがらとして、以下を書かれた方がいた。

- ・公衆電話が少なくなったので連絡が取れるか？
- ・薬をもらいに病院に行くのに交通が不安。
- ・入院中。手術中はどうなるのか？
- ・何時間前に情報提供があるのか？
- ・親と連絡がつかない子供はどうするのか？
- ・店が混雑・品切れで商品を買えない恐れがあると思う。

さらに、警戒宣言時の情報提供に関して、以下のような意見があった。

- ・テレビ、ラジオ、広報車等で正確な情報、早い情報、的確な指示
- ・地域の消防団からの連絡。
- ・一般市民が困難することがないような情報網の整備
- ・ラジオ情報が便利
- ・判定会招集・警戒宣言、早めに注意をよびかけてほしい
- ・「おちついてください、あわてないでください」の情報よりも、「 してください」という具体的指示を！
- ・早めに帰宅したいので、判定会招集情報を店・施設などで放送してほしい。
- ・判定会情報を早く正確に！
- ・判定会招集時に、学校企業へ帰宅の指示を行政から明確に示してほしい。
- ・どこで何をしても、情報が入るように！
- ・判定会動向の詳細でわかりやすい情報提供（まぎらわしい情報のカット）
- ・町内会への連絡
- ・情報の一元化
- ・市には最新情報を早い段階で発表してほしい。

4 . 地震発生後の情報提供

- ・津波が怖い。被害予想と予報を早めに！
- ・情報をインターネットで提供してほしい。避難場所等人が集まるところでアクセスできるように。
- ・避難場所に現状の情報提供を早急に！

5．災害弱者関係

- ・ 高齢介護者は、避難先での養護ができるか？
- ・ 介護車の置く場所など確保できるか？
- ・ 1人暮らしの人、体が不自由な人たちのことを最優先に考えてほしい。
- ・ 高齢者が多いので、わかりやすい対策を。
- ・ 高齢者、体が不自由な人たちには、早めに避難できる場所を市区が決めてほしい。
- ・ 体が不自由な方の避難方法と場所が心配。
- ・ お年寄りが安全に避難できるように。
- ・ 薬を常にのんでいる。避難したとき、医療を受けられるか？
- ・ 下半身マヒである。老人施設などに優先的に避難できるなど対策を考えてほしい。
- ・ 高齢なので早めに避難したい。
- ・ 看護を要する家族がいるため、非常時は行政側の援助がほしい。援助体制をつくってほしい。
- ・ 持病を持っており薬を切らした場合不安。

6．心配な地震被害について

- ・ 築年数の古い建物の心配
- ・ 河川堤防
- ・ 狭い道の路上駐車は危ない。
- ・ 高速道路への不安、道路の水はけの悪さ。
- ・ 火災が心配。
- ・ 津波が心配
- ・ 地下鉄、地下街の安全性
- ・ 地震後の治安が心配

7．提案、要望

- ・ 公的機関で家屋の耐震性を調査して、できれば耐震化補強なども。
- ・ 耐震診断を行政主導ですすめる。（費用の一部または全額の市負担）
- ・ 素人でも判断できる耐震診断マニュアル作成。
- ・ 早急に住宅の無料耐震診断を強制的に行うべきでは？
- ・ 住宅補強についての方法、費用など知恵がほしい。
- ・ 区・学区・町内会など小さな地域できめこまやかな防災対策指針を考えてほしい。
- ・ 震災時の犯罪防止のため、治安活動にも力をいれてもらいたい。
- ・ 市民等全ての人でシミュレーション的に避難をしてみても？
- ・ 地域での助け合いが大事。町内での組織づくりと訓練が必要。
- ・ 自動車の交通規制を第一にしてほしい。
- ・ 救援物資の飲み物はお茶と水を主体にしてほしい。
- ・ 食料、飲料水、住むところ、事前にある程度処置できる体制をつくってほしい。
- ・ 住民の災害に対する自衛マニュアルをつくりたい。
- ・ 日頃から違法駐車を排除するなど具体的な行動を期待したい。
- ・ 変化・規制に影響されない補給経路の確保。
- ・ 自主防災組織の充実。住民参加の防災訓練を定期的に。相互扶助できるように、市から各学区への機材の支給を充実してほしい。
- ・ 判定会招集時、中小企業でも帰宅させて避難準備をさせることを市として決めてほしい。

- ・防災フェアを定期的に行い、非常持ち出し用品を販売してほしい。
- ・役人の目でなく、市民の目で考えてほしい。
- ・徒歩避難については家屋倒壊を想定した時の車道歩行の安全確保に務める。
- ・複数の避難道路行程のシミュレーション。
- ・町内会の連帯感を強める。
- ・一定期間、自家用車の使用は全面的に禁止すべきである。
- ・自衛隊の要請方法を検討することや災害時にあたっての臨時雇員の確保育成をはかる。
- ・自家用車についてはその一部を人・物輸送用に供するため、予めそれら自家用車については何らかのマークを用意し、輸送にあたらせたらどうだろう。神戸の大震災の如き、陸の孤島にしないかぎり救助活動は可能であろうと思う。
- ・仮設住宅を建てる予定場所を各区に定めておくようにされたい。
- ・警戒宣言発令時にバス、電車が止まると自転車・バイクの盗難が多発すると思われる。遠距離移動の人のために発令時のみの自転車貸し出しが行われると便利だと思う。
- ・火災を起こさないよう指導。
- ・情報ばかりが先行して不安がいっぱい。もっと、市町村で具体的に指導してほしい。
- ・日常から引用できる水のある程度確保する手段を指導してはどうか。
- ・救急医療の場所、程度についての情報が不足している。
- ・区(地域住民)の町内ごとに震度6の揺れを想定した自主地震防災訓練を行って、その反省会を開き、東海地震に備えていくことが重要だ。
- ・スーパーなどで避難グッズなどをたくさん売ってもらいたい。意識高揚になる。
- ・家族は勿論地域の人達と常日頃話し合い理解と協力態勢を取らねばと思っている。
- ・名古屋市民全員参加位の防災訓練の日を決め、防災、交通、水防、医療、電気、ガス全てのライフライン想定で元で東海地震防災訓練。
- ・全てのライフラインが全く使えなくなったときや、銀行やデパートなど大きな建物が全壊したときなど、最悪のケースも考慮に入れて対策を考えてほしい。
- ・万が一の時に困らないように市の職員の方には危機意識と判断力を持って、私達市民に現状や見通しなど正しい情報をすばやく伝えてほしい。
- ・報道合戦を繰り広げ、混乱を招いたり、迷惑なこともあるので報道規制をしく。
- ・行政の壁を越えて、近隣の市町村との協力体制を築いてほしい。
- ・専門家の研究により早い段階で地震が予知できるようになるといい。
- ・非常持ち出しとして備蓄できる食糧は限られる。避難場所におけるすばやい食料調達が要求される。毛布なども早くそろそろ体制が必要。
- ・備蓄品は、何をどれだけ準備したらいいかわからないので、市としてサンプルでもいいから安価で販売、もしくは配布したかどうか？

以上

票 查 調

「東海地震における警戒宣言発令時の市民行動調査」へのご協力をお願い

皆さまには、日頃から市政に対してご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、名古屋市では、「東海地震における警戒宣言発令時の市民行動調査」を実施することといたしました。お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

本調査の趣旨

名古屋市は、本年4月、地震防災対策強化地域に指定されたことにもない、現在までの地震対策を、より一層強化する必要があります。本調査は、警戒宣言発令時等における市民の皆さまの行動などを広く調査した上で、警戒宣言発令時の対策を考える基礎資料とさせていただくものです。

平成14年6月 名古屋市

【ご記入にあたって】

1. 調査は、あて名ご本人がお答えください。
2. 調査票に回答を直接ご記入いただき、同封の返信用封筒にお入れの上、7月8日までにご投函ください。
3. ご回答いただいた結果は統計値としてまとめるため、個人のお名前が出るなどのご迷惑をおかけすることはありません。
4. 調査対象者として満20歳以上の市民2,000人の皆さまを住民台帳から無作為に選ばさせていただきました。
5. 本調査は、名古屋市の委託により中日本建設コンサルタント株式会社が実施します。このアンケートについてのご質問などは、下記までお問い合わせいただきますようお願いいたします。

調 査 主 体：名古屋市役所（消防局防災室）

電話：052-972-3523

担当 近藤・水野

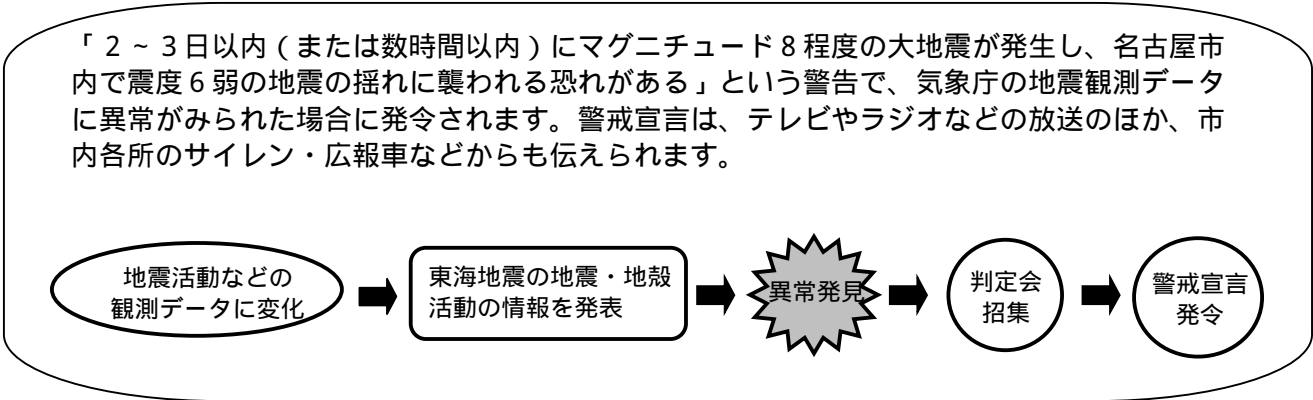
委託調査機関：中日本建設コンサルタント株式会社

電話：052-232-6049

担当 庄村・山野

警戒宣言に関する以下の説明をお読みになって、各設問にお答え下さい。

警戒宣言の発令とは？



ライフラインは使えるの？

（以下は、現在の考え方で、今後変わる可能性もあります。）

判定会招集：通常为社会環境（特急などの電車が一部停止する。）

警戒宣言時：以下の状況となります

警戒宣言が発令された場合の主なライフライン

電気	使用できるが、できるだけ使わない。
ガス	使用できる。（使用するときはガス器具から離れない）
水道	使用できるが、水はふだんからためておく。
電話	できるだけ使わない。（話はなるべく短くする）通話する人が爆発的に増えると通話規制がとられる。
バス	付近の安全なところまで走行し、運行は中止される。
鉄道	最寄りの安全な駅に停車し、運行は中止される。
道路	避難路及び緊急輸送路確保のため交通規制がされる。
デパート等	原則として営業が停止される。小規模小売店の一部は、営業が継続される。
銀行	原則として営業が停止される。一部のＡＴＭは使用可能である。
病院	外来診療を中止し、急患を中心に受け入れる。
学校・幼稚園	生徒・園児は原則としてすぐ帰す（集団下校）か、保護者に引き渡される。

警戒宣言発令で避難する必要があるのか？

（以下は、現在の考え方で、今後変わる可能性もあります。）

がけ崩れの危険性がある地域などは、安全な場所に避難すべき地区（避難対象地区）として指定され、避難勧告発令により指定避難場所（小中学校など）へ避難していただきます。

避難対象地区以外の市民は自宅など安全と思われる場所に留まっていただきます。ただし、自宅の耐震性が心配な場合は、指定避難場所に避難していただいで結構です。

避難場所においては、校庭（グラウンド）に避難していただくことになります。校舎・体育館は被災する可能性があるため利用できません。

避難場所では、必要な飲料水・食料・生活用品を各自用意する必要があります。

事前対策などについて

【問１】東海地震のような大地震が発生した場合、あなたの住まいおよび周辺ではどのような危険があると思われますか。（○はいくつでも）

1．がけ崩れ	2．家屋倒壊	3．火災
4．危険はない	5．その他（	）

【問２】自宅の耐震性についてご存知ですか？（○はひとつ）

1．耐震性あり	2．耐震性に不安がある	3．わからない
---------	-------------	---------

【問３】あなたの地域の避難場所をご存知ですか？（○はひとつ）

1．知っている（小中学校である）	2．知っている（公園である）
3．知っている（近所の空地である）	4．知らない

【問４】前ページの説明を読んで、「警戒宣言」時の社会の様子や規制、市民のとりべき行動などが理解できましたか？（○はひとつ）

1．理解できた	2．理解できたがわからない点もある
3．わからない点が多い	4．ほとんどわからない

【問５】問４で、２．３．４．とお答えになった方にお聞きします。不明点、わからない点は、どの点でしょうか？（○はいくつでも）

1．警戒宣言発令時の社会の様子	2．警戒宣言発令時の規制内容など
3．市民のとりべき行動	4．その他（
）	
<不明点をご自由にお書きください>	

【問６】警戒宣言発令時の行動・避難などについて、お宅で決めているものは何かありますか？（○はいくつでも）

1．家族との連絡方法を決めている
2．家族の行動を決めている
3．避難する場所を決めている
4．家族が離れ離れになった時の落ち合う場所を決めている
5．その他（
6．特に決めていない
）

判定会招集、警戒宣言を知ったときの行動について

【問 7】「判定会招集」「警戒宣言」を知ったとき、あなたは何をしますか？各段階で考えられる行動について（ ）に○をつけてください。また、その他の行動については具体的にご記入ください。（○はいくつでも）

	【判定会招集】	【警戒宣言】
1. テレビ・ラジオで情報を得る	()	()
2. 電話・インターネットで情報を確認する	()	()
3. 非常持出品の準備をしたり、軽装な服装に着替える	()	()
4. 家の中の整理や火の始末をする	()	()
5. 飲料水の準備や風呂に水をためる	()	()
6. 家族と電話で連絡を取る	()	()
7. 子供を学校、幼稚園、塾などに迎えに行く	()	()
8. 買出しに行く	()	()
9. 貯金を引き出しに行く	()	()
10. 自主防災組織や職場で決められた防災上の役割をする	()	()
11. 帰宅する、または安全と思われる場所へ避難する	()	()
12. 何もしない	()	()
13. 「判定会招集時」に行うと考えられるその他の行動 ()		()
14. 「警戒宣言時」に行うと考えられるその他の行動 ()		()

自宅にいるときの避難行動について

【問 8】判定会招集・警戒宣言の情報を知った場合、どこに避難しますか？（○はひとつ）

1. 自宅に留まる（避難しない）
2. 避難場所へ避難する
3. 近くの公園・空地などへ避難する
4. 市内の親類・知人宅などへ避難する
5. 市外の親類・知人宅などへ避難する
6. その他（ ）

【問 9】問 8 で避難すると答えた方にお聞きします。判定会招集・警戒宣言のどちらの情報を知った時に、避難しますか？ただし警戒宣言時はバス・鉄道は運行中止、道路は交通規制されます。（○はひとつ）

1. 判定会招集	2. 警戒宣言
----------	---------

【問 10】問 8 で避難すると答えた方、何を使って避難しますか？ただし警戒宣言時はバス・鉄道は運行中止、道路は交通規制されます。（主な手段ひとつに○）

1. 徒歩	2. 自転車	3. バイク
4. 自家用車	5. 電車・バス	6. その他（ ）

外出（勤務先・通学・買物など）をしている時の避難・帰宅行動について

通勤通学されている方は、勤務先・通学先にいる時の行動について、それ以外の方は買い物等でよく外出する先を一箇所思い浮かべて、お答えください。

【問 1 1】通勤・通学先 または、よく行く外出先として考えたところ（○はひとつずつ）

【目的】

- | | |
|-------------------------------|----------------|
| 1．通勤 | 2．通学 |
| 3．業務（仕事）目的 | 4．自由目的（買物、通院等） |
| 5．その他（ ） | |

【区】

- | | | | |
|---|--------|--------|--------|
| 1．千種区 | 2．東区 | 3．北区 | 4．西区 |
| 5．中村区 | 6．中区 | 7．昭和区 | 8．瑞穂区 |
| 9．熱田区 | 10．中川区 | 11．港区 | 12．南区 |
| 13．守山区 | 14．緑区 | 15．名東区 | 16．天白区 |
| 17．愛知県（ ）市 | | | |
| 18．（ ）県（ ）市 | | | |

【問 1 2】通勤・通学・外出の手段（主な手段をひとつ○）

- | | | |
|--------|---------|-------------------------------|
| 1．徒歩 | 2．自転車 | 3．バイク |
| 4．自家用車 | 5．電車・バス | 6．その他（ ） |

【問 1 3】勤務先・学校・外出先までかかる時間（○はひとつ）

- | | |
|---------|------------|
| 1．30分以内 | 2．1時間以内 |
| 3．2時間以内 | 4．2時間よりかかる |

【問 1 4】判定会招集・警戒宣言情報を知った場合、避難・帰宅しますか？ 勤務先・学校で指示が決まっている場合にはその指示を前提としてお答えください。
（○はひとつ）

- | |
|-------------------------------|
| 1．勤務先・通学先・外出先の建物内に留まる |
| 2．帰宅する |
| 3．近くの公園・空地などへ避難する |
| 4．近くの避難場所へ避難する |
| 5．市内の親類・知人宅などへ避難する |
| 6．市外の親類・知人宅などへ避難する |
| 7．その他（ ） |

【問 1 5】問 1 4 で避難・帰宅する方にお聞きします。判定会招集・警戒宣言のどちらの情報を知った時に、避難・帰宅されますか？ただし、警戒宣言時は、バス・鉄道は運行中止、道路は交通が規制されます。（○はひとつ）

- | | |
|---------|--------|
| 1．判定会招集 | 2．警戒宣言 |
|---------|--------|

【問 1 6】問 1 4 で避難・帰宅すると答えた方、何を使って避難・帰宅しますか？ただし、警戒宣言時は、バス・鉄道は運行中止、道路は交通が規制されます。
(主な手段ひとつに○)

1 . 徒歩	2 . 自転車	3 . バイク
4 . 自家用車	5 . 電車・バス	6 . その他 ()

【問 1 7】警戒宣言発令によりバス・鉄道の運行が中止、道路も交通規制がひかれた場合、外出先から帰宅するために何 km 程度ならば歩いて帰りますか？ 問 1 1 で答えられた外出先とは関係なく、徒歩可能と思われる距離をお答えください。(○はひとつ)

1 . 10km まで	2 . 15km まで	3 . 20km まで
4 . 25km まで	5 . 30km まで	6 . () km まで

歩行速度 80m/分(不動産の表示に利用される)だと 1 時間に 4.8km 歩けますが、警宣言時は、道路混雑、また道路が不案内などで歩行速度が落ちることが考えられます。

現在の食料・飲料水などの自宅での備蓄について

【問 1 8】非常持出用として何日分の食料を自宅で備蓄していますか？(○はひとつ)

1 . 1 日分	2 . 2 日分	3 . 3 日分
4 . 4 日分	5 . 5 日分	6 . 6 日分
7 . 7 日以上	8 . 1 日分も用意していない	

【問 1 9】食料を購入できなくなった場合、現在自宅にある食料(非常持出用とその他の在庫保存食など含んだもの)で、何日間生活できると思いますか？(○はひとつ)

1 . 1 日分	2 . 2 日分	3 . 3 日分
4 . 4 日分	5 . 5 日分	6 . 6 日分
7 . 7 日以上	8 . 1 日も生活できない	

【問 2 0】何日分の飲料水を自宅で備蓄していますか？1 人 1 日当り 3 リットル必要としてお答えください。(○はひとつ)

1 . 1 日分	2 . 2 日分	3 . 3 日分
4 . 4 日分	5 . 5 日分	6 . 6 日分
7 . 7 日以上	8 . 用意なし(井戸あり)	9 . 用意なし(井戸なし)

【問 2 1】食料、飲料水の他に非常持出品として何を用意していますか？(○はいくつでも)

1 . 毛布または寝袋	2 . 下着類
3 . ちり紙、タオル、せっけん	4 . 救急医療品、常備薬
5 . 手袋、ヘルメット、防災ずきん	6 . 貯金通帳、印鑑
7 . 現金	8 . ナイフ、缶切り、ロープ、ひも
9 . ローソク、マッチ、懐中電灯	10 . 携帯ラジオ
11 . キャンプ用テント	12 . 雨具・カップ
13 . 防寒衣	14 . その他 ()
15 . 何も用意していない	

【問 2 2】判定会招集、警戒宣言発令などの情報を知った場合、食料品・飲料水を買いにいきますか？（○はひとつ）

- 【問 2 3】「問 2 2 で買いにいくと答えた方」にお聞きします。食料、飲料水を何日分くらい買いますか？また、食料、飲料水以外に何を買いますか。

【問 2 6】問 2 5 で選ばれた情報をどのような広報媒体で提供してほしいですか？
（○はいくつでも）

【日常からの情報提供】 1 . テレビ 2 . ラジオ 3 . 新聞 4 . 広報なごや 5 . 広報車 6 . 冊子 7 . 市ホームページ 8 . その他（ ）	【緊急時の情報提供】 1 . テレビ 2 . ラジオ 3 . 市ホームページ 4 . 広報車 5 . その他（ ）
--	--

あなたとご家族についてお聞きします。該当する番号に○をつけてください。

【問 A】あなたの性別・年齢（○はひとつずつ）

【性別】	1 . 男性	2 . 女性	
【年齢】	1 . 20～29 歳	2 . 30～39 歳	3 . 40～49 歳
	4 . 50～59 歳	5 . 60～69 歳	6 . 70 歳以上

【問 B】あなたの職業（○はひとつ）

1 . 勤務人（サラリーマン、管理職）	2 . 自営業・自由業
3 . パート職	4 . 家事専業
5 . 学生	6 . 無職
7 . その他（ ）	

【問 C】住区（○はひとつ）

1 . 千種区	2 . 東区	3 . 北区	4 . 西区
5 . 中村区	6 . 中区	7 . 昭和区	8 . 瑞穂区
9 . 熱田区	10 . 中川区	11 . 港区	12 . 南区
13 . 守山区	14 . 緑区	15 . 名東区	16 . 天白区

【問 D】ご家族にあなたも含めて以下のような方はいらっしゃいますか？（○はいくつでも）

1 . 乳幼児・小学生・中学生	2 . 70 歳以上の方
3 . 1 , 2 以外で自力避難が困難な方	

【問 E】問 D の 1 . 2 . 3 に該当する方は、自分または家族や近所の方の介助で避難できますか？（○はひとつ）

1 . できる	2 . できない
---------	----------

【問 F】住居の種類・構造・階数・建築年・住んでいる階（○はひとつずつ、階数は数字をご記入ください）

【所有形式】

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1．持家 | 2．借家・寮・間借・下宿 |
| 3．その他（ ） | |

【構造】

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1．木造 | 2．RC（鉄筋コンクリート造） |
| 3．SRC（鉄骨鉄筋コンクリート造） | 4．その他の非木造 |
| 5．わからない | |

【建築年】

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1．昭和 56 年（1981 年）以前 | 2．昭和 56 年（1981 年）以降 |
| 3．わからない | |

【建物階数・住んでいる階】

（ ）階建て の （ ）階 に住んでいる。

↑
1 戸建ての方は回答の必要はありません。

東海地震に関すること、また市の地震防災への取り組みなどについて日頃から考えられていることを、ご自由にお書きください。

～ 本調査にご協力いただき誠にありがとうございました。 ～
同封の封筒に用紙を入れ、ご返送ください。